

50th

1974—2024



上球磨消防組合発足50周年記念誌

目次

- ごあいさつ 上球磨消防組合長
上球磨消防組合議会議長
上球磨消防組合消防長

- 消防組合消防本部の位置・人口の推移

- 消防組合組織及び機構

- 消防組合管理者・議会

- 歴代組合長・議会議長・消防長

- 消防組合の沿革

- 通信指令業務
通信業務の歴史（昭和～平成）
通信業務の歴史（令和～現在）
通信系統図

- 警防業務
火 災
救 助
大規模災害（緊急消防援助隊・熊本県消防相互応援協定）
救 急（救急業務の歩み）

- 予防業務
防火対象物の現況
危険物施設の推移

- 各種訓練風景

- 編集後記



発足50周年を迎えて

上球磨消防組合長 中嶽 弘継

この度、上球磨消防組合は、昭和49年の常備消防発足以来50周年を迎えることとなりました。これまでの消防行政の発展に大きくご貢献いただきました皆様方に深く感謝申し上げます。

発足当初は、1本部1署職員35名体制でスタートした組織も、現在は1本部1署1分署68名体制の組織となり、消防力の充実強化を図ることができました。

近年の災害状況は、大規模地震をはじめ、局地的集中豪雨による水災害や土砂災害などの自然災害が全国各地で頻発しており、甚大な被害をもたらしている状況であり、消防に寄せる期待や信頼度は大きく、消防の役割は益々重要なものとなっています。

常備消防発足50周年を迎え、消防がこれまで培ってきた成果と教訓を基に、今後も住民の安心・安全のため消防団を含めた消防関係機関が一丸となって、各種災害に対応するための組織体制の強化、活動体制の整備、社会情勢等の変化に対応した予防対策等の推進など様々な課題に対して、最善の努力を続けてまいり所存であります。今日まで深いご理解とご支援を賜りました地域住民の皆様方に感謝申し上げます、この地が明るく豊かで住みよい上球磨地域となりますよう、今後ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



ごあいさつ

上球磨消防組合議会 議長 米本 宗徳

この度、上球磨消防組合が発足 50 周年を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昭和 49 年に上球磨 8 ヶ町村の消防、防災、救急業務の拠点として発足した当組合も 50 年が経過し、その間、地域住民の生命財産を守り「安全安心の地域づくり」に貢献されてきました。これもひとえに職員の皆様の努力と、関係各位及び地域住民の方々のご協力、ご支援の賜物であり、深く敬意と感謝の意を表すものでございます。

さて、当組合は平成 18 年に東分署を開署、令和 3 年には消防庁舎総合落成を終え、消防力強化をして参りました。しかしながら、近年の異常気象による豪雨災害、南海トラフ巨大地震への備えなど、消防の果たす役割は重大であります。職員の皆様におかれましては、この 50 周年の節目の年を契機としてその重大さを再認識され、地域住民の生命財産を守るために尚一層精進されますことをお願い申し上げます。

なお、当組合議会も消防の担う重要性を認識し、政策提言、議論を重ねていく所存でございますので、関係各位のより一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げご挨拶といたします。



記念誌の発刊にあたり

上球磨消防組合 消防長 高畠 浩典

この度、上球磨消防組合は発足 50 周年という輝かしい節目を迎えました。

顧みますと 1 消防本部 1 消防署、職員 35 人で発足し、この半世紀の間に消防関係者並びに住民の皆様のご理解とご支援により、現在では 1 消防本部 1 消防署 1 分署、職員定数 77 人まで拡充されるとともに、消防施設と装備の充実が図られて参りましたことに、衷心よりお礼申し上げます。

また、歴代消防長や諸先輩方のこれまでのご苦勞に対し、敬意と感謝を申し上げます。

近年の消防を取り巻く災害環境は、大規模地震や集中豪雨による自然災害をはじめとして、複雑多様化、大規模化しており、予測を超える災害が多数発生しています。これらの災害から住民皆様の生命身体財産を守るためには、これまで継承されてきた英知、情熱を集結し、地域防災力のなお一層の強化が必要であると感じております。

このような中、災害に強く地域の皆様に安心安全を提供する「新たな防災拠点」として令和 2 年度に消防庁舎が完成いたしました。

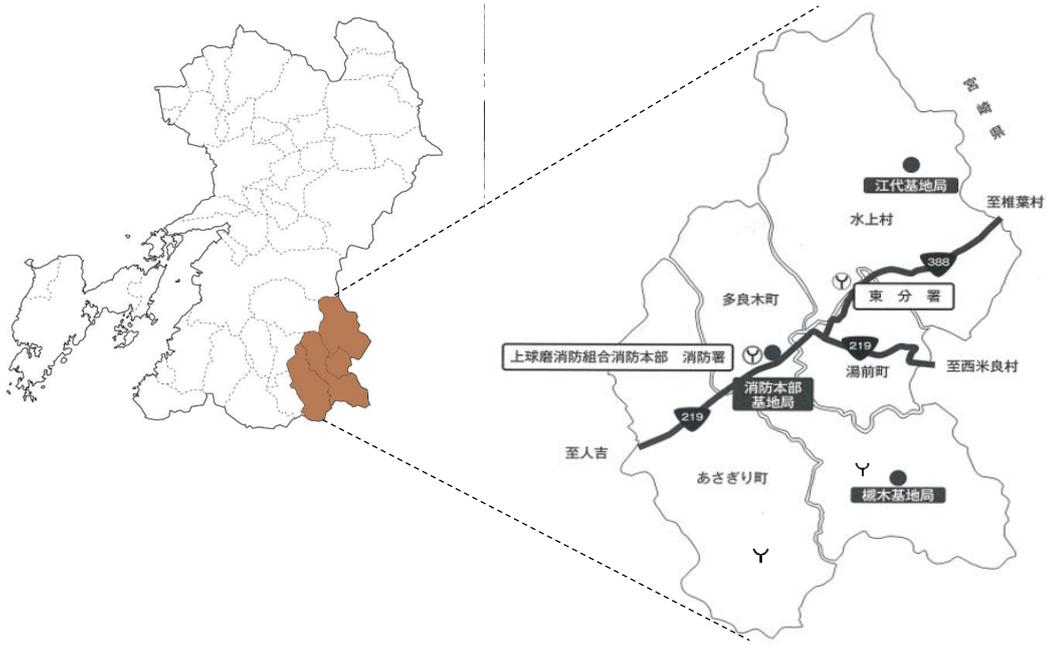
また、令和 7 年 4 月には、人吉下球磨消防組合及び当消防組合の両消防本部の消防指令システムを統合し、「人吉球磨消防指令センター」として、共同で運用を行う事業を進めているところです。

今後ともあらゆる災害に即応できるよう全職員がより一層結束を高め、関係機関と更なる強固な連携を図り、崇高な職務に励んで参ります。

ここに 50 年にわたる当組合の歩んだ足跡を振り返り、これまでに築き上げてこられた歴史を誇りとし、消防行政のあゆみと、管内で発生した災害の記録を記し、この記念誌を発刊いたしました。

結びに、関係者の皆様のご尽力に対しまして改めて感謝を申し上げますとともに、当組合に対する皆様方からのより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願いいたします。発刊に寄せるご挨拶といたします。

上球磨消防組合 位置図



上球磨消防組合消防本部・上球磨消防署



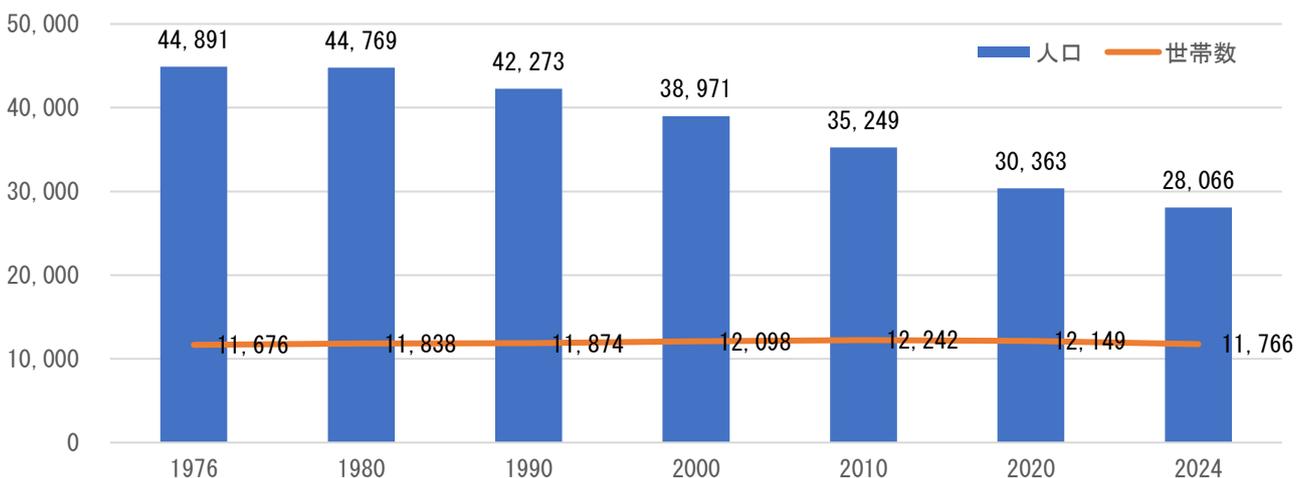
建築年月 令和元年 11月
 敷地面積 9,125 m²
 延床面積 庁舎 1,670.43 m² 車庫 575.29 m²
 主訓練棟 202.08 m² 副訓練棟 178.34 m²

上球磨消防署・東分署

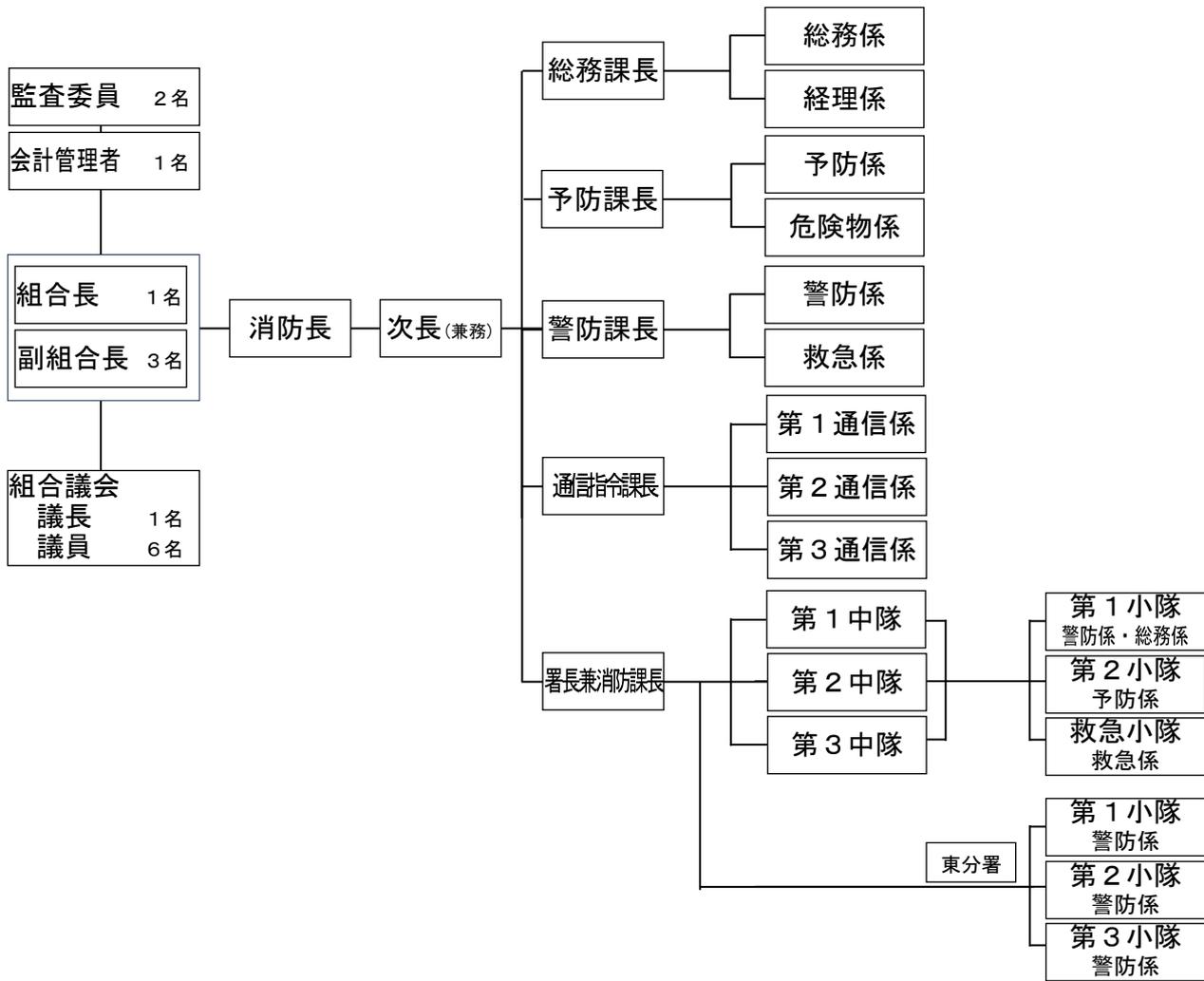


建築年月 平成 18年 10月
 敷地面積 1,698 m²
 延床面積 251.24 m²

上球磨消防組合管内人口及び世帯数の推移



消防組合組織・機構



消防組合管理者・議会

令和6年12月現在

管理者		
組合長	中嶽 弘継	水上村
副組合長	北口 俊朗	あさぎり町
副組合長	長谷 和人	湯前町
副組合長	吉瀬 浩一郎	多良木町

監査委員・会計管理者		
識見者	山崎 信治	人吉市
議会選出	豊永 好人	多良木町
会計管理者	西本 克幸	水上村

組合議員		
議長	米本 宗徳	水上村
副議長	橋本 誠	あさぎり町
議員	倉本 豊	湯前町
議員	落合 健治	多良木町
議員	岩本 恭典	あさぎり町
議員	豊永 好人	多良木町
議員	森岡 勉	あさぎり町

歴代 組合長

歴代	組合長名	就任期間	町村
初代	恒松 良一郎	昭和49年4月～昭和52年2月	多良木町長
第2代	那須 始	昭和52年2月～昭和56年2月	多良木町長
第3代	久保田 兵吾	昭和56年2月～昭和60年2月	多良木町長
第4代	久保田 兵吾	昭和60年2月～平成元年2月	多良木町長
第5代	那須 孝人	平成元年2月～平成5年2月	多良木町長
第6代	那須 孝人	平成5年2月～平成9年2月	多良木町長
第7代	那須 孝人	平成9年2月～平成13年2月	多良木町長
第8代	那須 孝人	平成13年2月～平成17年2月	多良木町長
第9代	松本 照彦	平成17年2月～平成21年2月	多良木町長
第10代	松本 照彦	平成21年2月～平成25年2月	多良木町長
第11代	松本 照彦	平成25年2月～平成29年2月	多良木町長
第12代	吉瀬 浩一郎	平成29年2月～令和3年2月	多良木町長
第13代	吉瀬 浩一郎	令和3年2月～令和3年4月	多良木町長
第14代	中嶽 弘継	令和3年5月～令和5年4月	水上村長
第15代	中嶽 弘継	令和5年4月～現在に至る	水上村長

歴代 組合議会議長

歴代	議長名	就任期間	出身
初代	笹渕 弘之	昭和49年2月～昭和50年6月	旧上村
第2代	堤 行信	昭和50年6月～昭和58年5月	多良木町
第3代	酒井 香苗	昭和58年5月～昭和60年12月	旧須恵村
第4代	榎本 七郎	昭和60年12月～昭和62年6月	旧上村
第5代	那須 均	昭和62年6月～平成3年6月	多良木町
第6代	小野 信親	平成3年6月～平成7年6月	水上村

第7代	北村 龍三	平成7年6月～平成10年4月	旧免田町
第8代	尾方 孜	平成10年6月～平成11年6月	旧免田町
第9代	井上 光男	平成11年6月～平成15年6月	多良木町
第10代	中村 甚介	平成15年6月～平成16年5月	あさぎり町
第11代	桑原 武夫	平成16年6月～平成20年5月	あさぎり町
第12代	森下 孝幸	平成20年5月～平成23年4月	多良木町
第13代	小見田和行	平成23年4月～平成28年5月	あさぎり町
第14代	小野 頼年	平成28年5月～平成30年4月	水上村
第15代	永井 英治	平成30年4月～令和3年11月	あさぎり町
第16代	宇佐 信行	令和3年11月～令和5年4月	多良木町
第17代	米本 宗徳	令和5年4月～現在に至る	水上村

歴代 消防長

歴代	消防長名	就任期間	出身
初代	赤池 末夫	昭和49年6月～昭和51年3月	多良木町
第2代	柳原 輝男	昭和51年5月～昭和55年9月	多良木町
第3代	宮原 龍幸	昭和55年10月～平成3年3月	旧岡原村
第4代	長谷 政勝	平成3年4月～平成7年12月	旧免田町
第5代	那須 真人	平成8年1月～平成9年9月	旧深田村
第6代	大石 幹雄	平成9年10月～平成11年3月	水上村
第7代	山本 侑	平成11年4月～平成17年3月	あさぎり町
第8代	西山 晴男	平成17年4月～平成21年3月	多良木町
第9代	村山 幸典	平成21年4月～平成23年3月	あさぎり町
第10代	石塚 鉄郎	平成23年4月～平成25年3月	あさぎり町
第11代	澤田 光徳	平成25年4月～平成27年3月	あさぎり町
第12代	永田 平馬	平成27年4月～平成28年3月	湯前町
第13代	吉鶴 和幸	平成28年4月～平成29年4月	あさぎり町
第14代	松本 典生	平成29年4月～令和2年3月	あさぎり町
第15代	高畠 浩典	令和2年4月～現在に至る	あさぎり町



消防組合の沿革



年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
昭和 48年	6 上球磨消防組合設立委員会 10 政令指定申請	11 熊本大洋デパート火災 (死者103人)
S49	2 消防組合設立知事認可 4 上球磨消防組合設立 組 合 長 恒松良一郎 (多良木町長) 組 合 議 長 笹 淵 弘 之 (上村議会) 収 入 役 山 下 讓 (多良木町収入役) 監 査 委 員 西 孝 一 郎 (多良木町・識見) 星 原 秀 雄 (岡原村議会) 消防本部発足 旧多良木高等学校跡地仮事務所設置 職員14名採用 初任科5名入校 (第15期) 5 消防本部へ指令車配備 6 初代消防長に赤池末夫氏就任 7 職員21名採用 初任科21名入校 (第16期) 消防署に救急車及びポンプ車配備  8 消防署に水槽付きポンプ車配備   9 消防庁舎落成 消防無線基地局1・移動局6開局 10 消防業務実働開始 	5 管内降雹による被害 (農作物) 11 球磨商業高校校舎落成
S50	2 防火管理者講習会を開始 3 日本損害保険協会から救急車寄贈 消防署へ救急2号として配備 6 議会議長に堤行信氏就任 (第2代) 議会選出監査委員に溝口保男氏選任 9 職員3名採用 初任科3名入校 (第18期)	3 湯前線で全国最後のSL廃止 3 山陽新幹線岡山博多間開通 5 球泉洞オープン
S51	3 上球磨消防組合総合防災訓練 5 第2代消防長に柳原輝男氏就任 6 農協共済から救急車寄贈 消防署へ救急3号として配備   	1 湯前町で製材所倉庫等の延焼 火災 (焼失面積2,192㎡) 2 ロッキード事件

年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
9	水難救助用ボート（船外機付）配備	10 山形県酒田市大火 （死者1人 負傷者1,003人 焼失家屋1,774戸）
12	補助訓練塔完成	
S52	2 組合長に那須始氏就任	4 人吉ループ橋開通
4	熊本県消防長会春季総会開催 （水上村総合センター）	
6	監査委員に野田昭三氏（識見）就任	
11	消防無線槻木中継局完成	
12	林野火災用小型ポンプ及び 可搬式散水装置整備	
12	救助工作車配備	
S53	2 熊本県、営林局、上球磨消防組合主催 林野火災空中消火訓練実施	1 伊豆大島近海地震 M7.0 （死者25人 負傷者178人）
4	職員2名採用（増員） 初任科2名入校（第21期）	6 宮城県沖地震 M7.4 （死者27人 負傷者10,962人）
	気象観測機を設置し気象観測を開始	7 人吉矢黒バイパス開通
		12 第二次オイルショック
S54	6 議会選出監査委員に星原重郎氏選出	7 東名高速道路日本坂トンネル火災 （死者7人 焼失車両189台）
8	庁舎増築工事落成	
10	実働5周年記念消防団親善駅伝大会	
S55	1 林野火災用可搬式散水装置整備（50個）	8 静岡駅前地下街ガス爆発 （死者14人 負傷者199人）
4	職員1名採用（欠員補充） 初任科1名入校（第23期）	
5	訓練場夜間照明設備工事完成	
7	少年消防クラブ育成会結成	
8	一斉指令及びテレホンサービス装置導入	
	第9回全国消防救助技術大会（名古屋市） 陸上の部：矢野消防士長（ロープ登はん）出場	
	少年消防クラブ合宿訓練（46名）	
10	第3代消防長に宮原龍幸氏就任	
12	監査委員に野田昭三氏（識見）再任	
S56	1 職員1名採用（欠員補充） 初任科1名入校（第24期）	
2	組合長に久保田兵吾氏（多良木町長）就任	
6	訓練場用地取得（3,142㎡）	
S57	3 訓練場用地取得（1,575㎡）	2 ホテルニュージャパン火災 （死者31人 負傷者28人）
7	多良木自動車学園水難救助 孤立した55名救助	
9	屋外訓練場造成工事完了	
		3 上村小学校皆越分校廃校
		4 岡原村役場庁舎落成

年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
10	車両用ピット建設工事完了	6 水上村役場庁舎落成
11	車庫及資料室建設工事完了 上村消防団ポンプ操法全国大会5位入賞	11 横谷トンネル開通
S58	3 救急1号車更新	1 清願寺ダム完工
5	議会議長に酒井香苗氏就任（第3代） 議会選出監査委員に河野金一氏選任	2 羽田沖に日航機墜落 （死者24人）
8	庁舎前舗装工事及び 屋外便所新築工事完成	3 免田町役場庁舎落成
9	指令車更新	4 東京ディズニーランド開園
		5 日本海中部地震 （死者不明者14人）
		
S59	4 職員2名採用（増員） 初任科2名入校（第27期） 熊本県消防長会春季総会開催 （多良木町多目的研修センター）	3 グリコ事件
9	上球磨消防組合発足10周年記念式典 （消防署・消防団連合会運動会）	6 五木村竹の川でがけ崩れ （死者15人）
10	第1回幼年消防大会を実施 （平成元年まで毎年開催）	9 公立多良木病院移転新築落成
11	財団法人日本防火協会から 防火指導車寄贈（宝くじ号）配備	9 長野県西部地震 （死者不明者29人）
12	監査委員に野田昭三氏（識見）再任	10 カルチャーパレスオープン
		
		
		
S60	2 組合長に久保田兵吾氏（多良木町長） 再任	3 青函トンネル開通
6	熊本県消防長会予防担当者会議開催 岩下兄弟合資会社から 指導広報車寄贈配備	4 水上村小学校柳原分校休校
8	財団法人日本防火協会から 救急車寄贈 救急2号車更新	8 日航ジャンボ機墜落 （死者520人 負傷者4人）
12	議会議長に榎本七郎氏就任（第4代）	
		
		
S61	4 消防救急業務相互応援協定締結 （宮崎県小林市、えびの市、須木村及び 西諸広域消防組合と多良木町、上村 及び上球磨消防組合）	1 スペースシャトル発射直後爆発
6	河川情報センター専用端末装置設置 業務開始	4 チェルノブイリ原発爆発放射能 漏れ事故
7	職員1名採用（欠員補充）	
10	熊本県消防長会総務担当者会議開催（免田町総合福祉センター）	
		

年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
S62	<p>4 職員3名採用（増員） 初任科4名入校（第30期）</p> <p>6 議会議長に那須均氏就任（第5代） 議会選出監査委員に北村龍三氏選任</p> <p>10 庁舎増築工事、通信機器移設工事完成 町村防災行政無線非常通報システム 工事完成 ポンプ車を更新</p> <p>11 免田町防災行政無線非常通報 システム運用開始</p>	<p>4 国鉄民営化 J R九州発足</p> <p>7 九州縦貫道肥後トンネル避難坑 貫通</p> <p>11 阪神タイガース野田浩司投手 （多良木町出身）を一位指名</p>
S63	<p>3 岡原村、須恵村防災行政無線非常通報 システム運用開始</p> <p>4 深田村防災行政無線非常通報システム運用開始</p> <p>5 上村防災行政無線非常通報システム運用開始</p> <p>11 危険物取扱者保安講習会</p> <p>12 監査委員に野田昭三氏（識見）再任</p>	<p>3 上海列車事故 （死者27人 負傷者46人）</p> <p>4 瀬戸大橋開通</p> <p>4 九州縦貫道肥後トンネル貫通</p>
平成 元年	<p>2 組合長に那須孝人氏（多良木町長）就任</p> <p>6 事務連絡車を配備 予防広報車を更新</p> <p>7 湯前町防災行政無線非常通報システム 運用開始</p> <p>9 社団法人日本損害保険協会から 水槽付ポンプ車を寄贈更新</p>	<p>1 元号を「平成」と改号</p> <p>9 多良木町役場庁舎落成</p> <p>10 くま川鉄道スタート</p> <p>12 九州縦貫道八代一人吉間開通</p>
H2	<p>2 水上村防災行政無線非常通報システム 運用開始</p> <p>4 職員2名採用（増員） 初任科2名入校（第33期）</p> <p>7 熊本県消防長会危険物担当者会議開催（免田町総合福祉センター）</p> <p>10 第7回幼年消防大会を実施（隔年開催に変更）</p>	<p>10 須恵村23年間無火災ストップ</p>
H3	<p>4 第4代消防長に長谷政勝氏就任 職員1名採用（欠員補充） 初任科1名入校（第34期）</p> <p>6 議会議長に小野信親氏就任（第6代） 議会選出監査委員に万江義富氏選任 交代制勤務を二部制から三部制へ移行</p> <p>7 岩下兄弟合資会社から 人員搬送用マイクロバスを寄贈配備</p> <p>11 熊本県消防長会秋季総会開催 （水上村総合センター）</p>	<p>1 湾岸戦争勃発</p> <p>3 広島市新交通システム工事現場 で橋げた落下（死者14人）</p> <p>6 長崎県普賢岳で大規模火砕流が 発生（死者・行方不明者31人）</p> <p>9 台風19号襲来 日本全国に記録的な被害</p>
H4	<p>4 管内町村の緊急通報システムを 消防本部にセンター化、運用開始</p>	<p>4 湯前町日本一の大水車完成</p>

年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
8 12	財団法人日本防火協会から救急車寄贈 救急1号車更新 監査委員に伊藤章氏（識見）就任	10 J A 球磨広域農業協同組合 発足
H5 1 2 3 4 6 10	救助工作車Ⅱ型を配備 組合長に那須孝人氏（多良木町長） 再任 味岡建設株式会社から 高規格救急自動車を寄贈配備 職員3名採用（増員） 初任科3名入校（第36期） 議会選出監査委員に西岩人氏選出 非常電源用自家発電装置を更新整備	4 新幹線東京博多間に新型車両 「のぞみ」走る 5 郡市最大の超大型店 「サンロードシティ」がオープン 6 皇太子ご成婚 7 北海道南西沖地震 M7.8 （死者・行方不明者231人） 8 南九州に記録的な集中豪雨 鹿児島シラス台地に甚大被害 10 稲戦後最大の不作 消費米不足で緊急輸入 11 九州自動車道加久藤トンネル 貫通
H6 3 4 5 6 11	高規格救急車用資機材整備 多良木町防災行政無線非常通報 システム運用開始 救急救命東京研修所入校1名（第6期） ※上球磨消防初の救急救命士養成 水難救助用船外機付ゴムボート配備 宮崎県椎葉村、水上村及び上球磨消防 組合において、火災及び救急業務相互 応援協定締結 第2回熊本県幼年消防大会開催 （多良木町民体育館） 上球磨消防組合20周年記念式典	6 松本サリン事件 （死者7人 中毒者79人） 7 日本人初の女性宇宙飛行士が スペースシャトルで宇宙飛行 10 北海道東方沖地震 M8.2 （負傷者437人） 12 三陸はるか沖地震 M7.6 （死者3人 負傷者787人）
H7 3 6	消防緊急指令装置Ⅰ型設置 議会議長に北村龍三氏就任（第7代） 議会選出監査委員に北川嘉郎氏選任	1 阪神淡路大震災 M7.3 （死者・行方不明者6,433人 負傷者43,792人） 3 地下鉄サリン事件 （死者11人 負傷者5,512人） 12 福井県 高速増殖炉「もんじゅ」 ナトリウム漏洩事故
H8 1 2 4 8 12	第5代消防長に那須真人氏就任 監査委員に那須均氏（識見）就任 職員1名採用（欠員補充） 初任科1名入校（第39期） 岩下兄弟合資会社から指令車寄贈更新 監査委員に松田寛氏（識見）就任	2 北海道余市町 豊浜トンネル 岩盤崩落事故（死者20人）



年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
H9 2	救急1号車に救急資器材9項目を整備	
	組合長に那須孝人氏（多良木町長）再任	
4	熊本県消防長会春季総会開催（須恵村文化ホール）	3 茨城県東海村 動力炉核燃料再処理施設火災36人被ばく
	宮崎県西米良村、水上村・湯前町・多良木町及び上球磨消防組合において、火災・救急業務相互応援協定締結	10 台風10号による暴風雨（死者・行方不明者13人 負傷者71人）
10	第6代消防長に大石幹雄氏就任	
H10 3	熊本県農業共済協同組合連合会から救急車寄贈 救急2号車更新	
		
4	職員1名採用（欠員補充） 初任科1名入校（第41期）	
6	議会議長に尾方孜氏就任（第8代）	
10	救急救命九州研修所入校1名（第8期） ※以後、救急救命士順次養成	
H11 4	第7代消防長に山本侑氏就任	
	職員1名採用（欠員補充） 初任科1名入校（第42期）	
6	議会議長に井上光男氏就任（第9代） 議会選出監査委員に松本義高氏選任	8 不知火町松合地区で高潮災害（死者12人）
10	熊本県消防長会署長会開催（湯前町湯楽里）	8 茨城県東海村 JCOウラン加工施設臨界事故（死者2人 被ばく者319人）
		
H12 3	消防ポンプ自動車を水槽付に更新（ポンプ自動車は予備車に）	
		
4	職員1名採用（欠員補充） 初任科1名入校（第43期）	
8	第27回全国消防救助技術大会（熊本市）陸上の部：高島班（斜めブリッジ救助）出場	
		
9	熊本県消防長会総務担当者会開催（湯前町湯楽里）	
10	高規格救急自動車を配備	
		
H13 2	組合長に那須孝人氏（多良木町長）再任	2 ハワイホノルル沖漁業実習船「えひめ丸」衝突事故
4	職員1名採用（増員） 初任科1名入校（第44期）	3 青森県弘前市 武富士弘前支店放火火災（死者5人 負傷者4人）
	熊本県防災消防航空隊へ 椎葉一浩副士長（救急救命士）を派遣	
7	指導広報車更新	
		
9	熊本県消防長会救急担当者会開催（湯前保健センター）	9 歌舞伎町雑居ビル火災（死者44人 負傷者3人）
	上球磨地区総合防災訓練（主催：上球磨消防組合・水上村 共催：熊本県防災消防航空隊・日赤熊本県支部 協力：熊本県多良木警察署・熊本県市房ダム管理所）	9 ニューヨーク世界貿易センタービル同時多発テロ（死者・不明者2,823人）

年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
H14	<p>1 社団法人日本損害保険協会から 消防ポンプ自動車を寄贈配備</p> <p>6 熊本県消防長会危険物担当者会開催 (須恵村文化ホール)</p> 	<p>1 球磨村 小型セスナ機墜落 (死者1人)</p> <p>4 鹿児島市南国花火製造所爆発 火災 (死者9人 負傷者2人)</p> <p>7 水俣市宝川内集地区及び深川 新屋敷地区で土石流災害 (死者19人)</p>
H15	<p>6 議会議長に中村甚介氏就任 (第10代) 議会選出監査委員に上村豊一氏選任</p>	<p>4 あさぎり町発足 (管内5町村合併)</p>
H16	<p>4 職員1名採用 (欠員補充) 初任科1名入校 (第47期) 第7回熊本県救急教育セミナー (あさぎり町せきれい館)</p> <p>6 議会議長に桑原武夫氏就任 (第11代) 議会選出監査委員に松下幸郎氏選任 上球磨消防組合分署設置協議会設立</p> <p>8 資機材搬送車配備 (ユニック付き3tトラック)</p> <p>11 消防組合実働30周年記念大会 (あさぎり町せきれい館)</p> 	<p>5 拉致被害者の蓮池さん、地村さん 夫妻の子供5人が帰国</p> <p>6 小学生6年の女儿が同級生殺害</p> <p>8 台風16号日本列島縦断 (死者・行方不明者17人 負傷者267人) 湯前町猪鹿倉で台風16号豪雨 のため219号線崩落、湯前町で 水道送水管断裂のため断水</p> <p>10 新潟県中越地震 M6.8 (死者68人 負傷者4,805人)</p>
H17	<p>2 監査委員に尾方恵氏 (識見) 就任 組合長に松本照彦氏 (多良木町長) 就任</p> <p>3 高規格救急自動車配備 (社団法人 日本損害保険協会寄贈)</p> <p>4 第8代消防長に西山晴男氏就任 職員2名採用 (欠員補充) 初任科2名入校 (第48期)</p> <p>7 上球磨消防組合分署設置場所選定会議</p>  	<p>4 尼崎のJR西日本脱線事故 (死者107人 負傷者550人)</p> <p>10 小泉首相靖国参拝、中韓との 関係冷える</p> <p>11 マンションなど耐震強度偽造 千葉県の一級建築士がマンシ ョンなどの構造計算書を偽造</p>
H18	<p>3 消防広域再編会議 東分署造成工事入札 株式会社武田建設落札</p> <p>4 熊本県消防学校教官へ高畠浩典司令補を派遣 職員11名採用 初任科10名入校 (第49期)</p> <p>5 東分署建設設計業務委託指名入札 美建設計事務所落札 椎葉村と救急業務取り決め書についての会議</p> <p>6 正副組合長会・分署設置協議会 東分署建設工事入札 株式会社武田建設落札</p> <p>7 東分署建設起工式</p> <p>8 東分署舗装工事入札 株式会社武田建設落札 熊本県消防操法大会 (人吉市)</p> <p>9 熊本県消防広域再編会議</p> <p>10 東分署開署式 消防救急無線デジタル化推進協議会 全国消防操法大会 (ポンプ車の部・湯前消防団11位)</p> <p>11 町村防災システム会議 (町村長出席) 熊本県消防広域再編会議</p> 	<p>5 ジャワ島で大地震 (死者約6,000人)</p> <p>8 飲酒運転の悲惨な事故が多発 厳罰化の動き (福岡)</p> <p>9 安倍政権が発足 憲法改正や教育改革に意欲</p> <p>10 いじめ自殺、未履修などで教育 現場混乱。いじめが原因とみ られる自殺が相次ぐ</p>

年 月	消防組合の沿革	社会の出来事		
H19	1 第20回熊本県救急教育セミナー（あさぎり町須恵文化ホール）	3 能登、中越沖地震で原発の安全性に疑問 耐震基準を大幅に超す揺れや原発直下に断層の可能性など安全性に不安が広がった 7 参院選で自民党は地方格差や年金の逆風を受け歴史的惨敗 12 各地で賞味期限改ざんや原材料偽装などが続き「食」の安全信頼が大きく揺らいだ		
	2 消防救急無線デジタル化推進協議会			
	4 職員2名採用 初任科2名入校（第50期）			
	5 熊本県消防長会春季総会・職員意見発表会（八代市） 議会選出監査委員に松下幸郎氏選任			
	6 水槽付ポンプ車入札会 株式会社田原商会落札			
	7 岩下兄弟合資会社から東広報車寄贈			
	9 熊本県総合防災訓練（球磨村・水上村）			
	11 大規模災害対応訓練（湯前町グリーンパレス）			
	12 熊本県消防広域再編検討委員会（熊本市）			
	H20		1 水槽付消防ポンプ自動車更新	1 冷凍ギョーザ、汚染米転売など食への不安さらに高まる 中国製冷凍ギョーザを食べた10人の中毒症状が発覚 4 75歳以上の高齢者を対象にした後期高齢者医療制度が4月から始まった 4 4月1日からガソリン価格が1リットル20円以上値上がりした 6 秋葉原、大阪個室ビデオ店などで「誰でもよかった」的犯罪 秋葉原で7人殺害10人重軽傷 大阪でビデオ店放火15人死亡 9 福田首相も政権投げ出し 後継麻生首相の支持率急降下
			4 職員2名採用 初任科2名入校（第51期）	
			消防広域化の推進に関する説明会（熊本県庁）	
5 議会議長に森下孝幸氏就任（第12代） 消防指令システム整備事業入札				
6 全国消防長会春季総会（東京都）				
7 第37回九州地区消防救助技術指導会（沖縄県） 陸上の部：石塚班（引揚救助）出場				
8 熊本県総合防災訓練（益城町・消防学校）				
11 城南ブロックにおける消防広域化推進に関する担当課長会議（八代市）				
H21		1 城南ブロック消防広域化推進協議会 設立準備会代表者会議（八代市）	3 地方の高速道路がETC利用で土日祝日、千円で乗り放題 5 新型インフルエンザが大流行 死者も増加 8 裁判員裁判がスタート 8 民主圧勝、政権交代 社民・国民新と連立	
		2 組合長に松本照彦氏（多良木町長） 再任 監査委員に尾方恵氏（識見）再任		
		3 消防指令システム整備事業落成 通信課事務室改修工事竣工 完成		
		4 第9代消防長に村山幸典氏就任 熊本県防災消防航空隊へ石塚賢宏副士長（救急救命士）を派遣 職員2名採用 初任科2名入校（第52期）		
	11 大規模災害対応訓練（菊池市） 第2回城南ブロック広域化協議会（八代広域消防本部）			
	12 救助工作車入札会			
	H22	1 第32回熊本県救急教育セミナー（あさぎり町須恵文化ホール）		4 宮崎県で口蹄疫の被害が拡大 全国を震撼 6 観測史上最高の猛暑 熱中症多発で死者も
		2 消防フェア（1日消防長・元プロ野球選手 野田浩司氏）		
		4 職員6名採用 初任科6名入校（第53期）		
		6 仮眠室改修工事入札会 株式会社武田建設落札		
		7 第3回城南ブロック広域化協議会（八代広域消防本部）		



年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
8	救助工作車更新	9 尖閣諸島で中国漁船が巡視船に衝突 ビデオ流出騒ぎも
9	熊本県総合防災訓練（人吉市）	
10	国民保護・テロ災害訓練（熊本市）	
		
H23	第4回城南ブロック広域化協議会（八代広域消防本部）	3 東日本大震災、東電福島第一原発事故 3月11日午後2時46分、宮城県沖約130kmを震源とした地震発生、震度7M9と日本観測史上最大の規模 (死者約15,800人 行方不明者約3,500人)
3	上球磨消防フェスタ（あさぎり町 せきれい館） 緊急消防援助隊 東北地方太平洋沖地震 一次派遣（7名）仙台市 二次派遣（6名）仙台市	
4	第10代消防長に石塚鉄郎氏就任 職員3名採用 初任科3名入校（第54期） 議会議長に小見田和行氏就任（第13代）	
5	熊本県消防救急デジタル無線基本設計実施協議会専門部会（熊本市消防局） 東日本大震災への緊急消防援助隊熊本県隊派遣に係る事後検証会 外壁改修・外構整備工事入札会 議会選出監査委員に森崎勝氏就任	
8	第5回城南ブロック消防広域化協議会（八代広域消防本部）	
10	東ポンプ車購入入札会 株式会社田原商会落札 大規模災害対応訓練（吉無田高原） 第1回消防救急デジタル無線打合せ会議（消防学校）	
11	第6回城南ブロック消防広域化協議会（八代市） 緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（宮崎市） 総務大臣表彰及び消防長官表彰（東日本大震災関係）	
5		
4		
5	5 米特殊部隊がビンラディン容疑者を殺害	
7	7 サッカー女子W杯、なでしこジャパン世界一	
7	7 中国東部浙江省温州市高速鉄道で後続列車追突事故（死者40人、負傷者約200人）	
10	10 震災後の歴史的円高、1ドル75円32銭を記録	
12	12 北朝鮮の金正日総書記が急死 世界に波紋 69歳、急性心筋梗塞	
H24	1 熊本県ドクターヘリ運航開始	4 北朝鮮、金正恩氏第一書記就任 5 国内原発、全50基が運転停止 一時稼働ゼロ 8 シリア内戦激化、日本人ジャーナリスト山本美香さん殺害 8 ロンドン五輪、日本勢史上最多38個のメダル獲得 9 尖閣・竹島で領有権をめぐり 中国・韓国との関係悪化 12 第46回衆院選で自公圧勝 3年3カ月ぶりに政権奪還 第2次安倍内閣発足
3	少年消防全国表彰（上中・深田中受賞、東京都）	
4	職員6名採用 初任科6名入校（第55期）	
5	東ポンプ車更新 九州北部豪雨緊急消防援助隊派遣（阿蘇市7名出動）	
8	第41回全国消防救助技術大会（東京都）水上の部：榎木消防士（基本泳法）出場	
10	熊本県消防長会秋季総会（湯楽里） マイクロバス入札会 熊本トヨタ自動車株式会社落札	
11	上球磨消防組合幼年消防大会・消防職員意見発表大会	
		

年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
11	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（八代市球磨川河川敷）	12 山中教授、人工多能性幹細胞（iPS細胞）でノーベル賞受賞
12	議会選出監査委員に小野頼年氏選任	
H25	1 監査委員に柳瀬博史氏（識見）就任 第44回熊本県救急教育セミナー（あさぎり町深田せきれい館） 監査委員に柳瀬博史氏（識見）就任	1 アルジェリアで人質事件、天然ガス関連施設で邦人10人犠牲
2	2 組合長に松本照彦氏（多良木町長）再任 マイクロバス更新	4 アベノミクス始動、異次元緩和で円安・株高、景気回復ムード
4	4 第11代消防長に澤田光徳氏就任 熊本県防災消防航空隊へ山本英之司令補を派遣 職員3名採用 初任科3名入校（第56期）	7 日本、環太平洋連携協定（TPP）交渉に参加 10 伊豆大島、台風26号に伴う大規模な土石流災害（死者35人、行方不明者4人） 12 中国で「PM2.5」汚染深刻化
H26	4 職員4名採用 初任科4名入校（第58期） 組合設立後初の女性消防吏員採用	3 エボラ出血熱感染拡大 4 消費税率、8%引き上げ
6	6 事務車更新	4 韓国旅客船「セウォル号」沈没（死者・行方不明者304人） 8 広島市北部土砂災害、住宅流され74人死亡
H27	4 第12代消防長に永田平馬氏就任 職員2名採用 県消防学校初任科2名入校（第59期）	1 過激派組織「イスラム国」、邦人人質2人殺害
6	6 議会選出監査委員に小野頼年氏選任	
7	7 指揮車入札会 株式会社田原商会落札	
8	8 第44回全国消防救助技術大会（兵庫県）水上の部：郷消防士（複合検索）出場	9 安全保障関連法成立 集団的自衛権の行使可能 9 ラグビーW杯で日本代表歴史的勝利
9	9 石油組合との調印式（人吉下球磨消防本部）	9 中東紛争難民、100万人以上欧州に殺到
10	10 指揮車更新	
12	12 デジタル無線運用開始	
H28	1 土地（1,123㎡）購入	
4	4 第13代消防長に吉鶴和幸氏就任 熊本県消防学校教官へ澤村研史司令補を派遣 熊本地震発生 熊本県消防相互応援協定 消火隊 計12名 益城町派遣 救急隊 計6名 南阿蘇村派遣	4 熊本地震発生、震度7、M6.5 14日前震16日本震2回観測（死者150人超 関連死含む）
5	5 議会議長に小野頼年氏就任（第14代）	5 オバマ米大統領、被爆地広島へ歴史的訪問
6	6 ボートトレーラー更新	
7	7 第56回熊本県救急教育セミナー（あさぎり町深田せきれい館）	7 相模原市、知的障害者施設「津久井やまゆり園」で元職員19人殺害
8	8 議会選出監査委員に宇佐信行氏選任	



年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
8	第45回全国消防救助技術大会（松山市） 陸上の部：竹邊班（ほふく救出）出場	8 リオ五輪、ロンドン五輪を上回る 過去最多41個のメダル獲得
10	庁舎改築設計業務委託入札会 株式会社マック落札	
11	災害対応特殊救急自動車納車（東分署に配備）	11 米大統領選でトランプ氏勝利
12	庁舎建設用地測量業務委託入札会 有限会社東開設計落札 監査委員に牧本光秋氏（識見）就任	
H29	1 消防功労者表彰	1 トランプ氏米大統領就任、混乱 続く
2	2 庁舎建設用地測量業務委託納入検査 庁舎建設用地地質調査業務委託入札会 南九調査開発株式会社落札 組合長に吉瀬浩一郎氏（多良木町長）就任	2 マレーシア空港で金正男氏暗殺 化学兵器神経剤VX検出
3	3 消防救急デジタル無線システム保守業務委託入札会 三球電機株式会社落札 庁舎建設用地地質調査業務委託納入検査	
4	4 第14代消防長に松本典生氏就任	
5	5 消防功労者表彰 高機能消防指令システム実施設計業務委託入札会 株式会社水工社落札	
7	7 消防庁舎敷地造成工事入札会 丸昭建設株式会社落札 救急用訓練人形購入事業入札会 木村医療器株式会社落札 九州北部豪雨 緊急消防援助隊 計36名派遣 第1陣（5日～8日）6名 第2陣（8日～11日）5名 日田市派遣 第3陣（11日～14日）5名 第4陣（14日～17日）5名 朝倉市派遣 第5陣（17日～20日）5名 第6陣（20日～23日）5名 朝倉市派遣 第7陣（23日～26日）5名 朝倉市派遣	7 九州北部豪雨発生（福岡・大分） （死者38人 行方不明者3人） 7 国連で核兵器禁止条約採択
8	8 高機能消防指令システム実施設計納入検査 造成工事安全祈願お祓い 全国優良消防職員表彰式 1名受賞	8 森友・加計・日報、安倍政権 揺るがず 9 北朝鮮、核・ミサイル開発加速 弾道ミサイル日本上空越える
9	9 救急医療功労者知事表彰式 東分署救急隊受賞	10 神奈川県座間市、アパートに 9遺体、住人男性を逮捕
10	10 第10回屋内消火栓操法大会	12 天皇陛下退位、「2019年4月 30日」閣議決定
H30	2 消防功労者表彰	
3	3 消防特別功労表彰 1名受賞	
4	4 職員1名採用 初任科1名入校 （第63期）職員数：63名 議会議長に永井英治氏就任（第15代）	
7	7 第47回九州地区消防救助技術指導会 陸上の部：城本班（0-プブリッジ救出）出場 消防庁舎等改築工事入札会 味岡・丸昭建設工事共同企業体落札 消防庁舎等改築工事監理業務委託入札会 株式会社マック落札 高機能消防指令システム整備及び消防・救急デジタル無線設備移設事業 三球電機株式会社福岡支店落札 高機能消防指令システム整備及び消防・救急デジタル無線設備移設監理 業務委託入札会 株式会社建設技術研究所熊本事務所落札 議会選出監査委員に金子光喜氏選任	6 豪雨により柳橋川氾濫 7 オウム真理教松本元死刑囚ら 13人全員の刑執行 7 西日本豪雨発生 14府県で死者220人 9 北海道胆振東部地震 震度7 （死者41人） 10 韓国最高裁、元徴用工の損害 賠償を命じる判決
8	8 新庁舎安全祈願祭	11 日産自動車ゴーン会長逮捕
11	11 第21回幼年消防大会	



年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
H31	職員3名採用 初任科3名入校（第64期） 職員数：63名 熊本県防災消防航空隊へ葉山修英士長を派遣	3 マリナーズのイチロー現役引退 4 フランス世界遺産、ノートルダム大聖堂炎上
令和元年	5 業務系ネットワーク等更新及び保守業務委託賃貸借入札会 肥銀リース株式会社落札 新庁舎備品購入事業（什器類）入札会 株式会社文尚堂落札 第48回九州地区消防救助技術指導会 陸上の部：城本班（ロープブリッジ救出）出場	5 天皇陛下即位、新元号令和 7 京都アニメーション放火殺人 社員36人死亡
	8 新庁舎備品購入事業（トレーニング機具類）入札会 スポーツショップ前田落札 令和元年佐賀豪雨 緊急消防援助隊 8月27日～31日 武雄市及び大町町派遣 計6名派遣（活動隊4名支援隊2名） 消防庁舎等改築工事竣工検査 消防庁舎等改築工事監理業務委託 納品検査 新庁舎備品購入事業（什器類）（トレーニング機具類）納品検査 業務系ネットワーク等更新及び保守業務委託賃貸借完成検査	8 ゴルフ全英女子オープン 渋野日向子メジャー制覇 9 ラグビーワールドカップ日本大会 8強入りで日本中熱狂
	10 消防庁舎解体工事入札会 肥後環境株式会社落札	10 消費税10%引き上げ 軽減税率の導入
	11 新庁舎供用開始式 高機能消防指令システム整備及び 消防・救急デジタル無線設備移設 事業等完成検査	10 世界遺産、首里城火災
R2	3 消防庁舎解体工事竣工検査 4 第15代消防長に高畠浩典氏就任 職員1名採用 初任科1名入校（第65期） 職員数：62名 5 災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車更新事業入札会 株式会社田原商会落札 6 上球磨消防組合訓練棟改築工事入札会 7 令和2年7月豪雨 あさぎり町・多良木町浸水被害 熊本県消防相互応援協定 人吉下球磨消防組合派遣 救急隊計18名 第1陣（19日～20日）3名 第2陣（21日～22日）3名 第3陣（23日～24日）3名 第4陣（25日～26日）3名 第5陣（27日～28日）3名 第6陣（29日～30日）3名	4 新型コロナウイルス感染拡大 初の緊急事態宣言 7 令和2年豪雨災害発生 球磨川氾濫し特別養護老人 ホーム「千寿園」14人を含む 65人が犠牲、4,500棟超の 住宅が全半壊した
	  上球磨消防組合訓練棟改築工事監理業務委託入札会 株式会社マック落札	
	6 日本損害保険協会から高規格救急自動車寄贈決定 8 令和2年度寄贈救急自動車関連事業入札会 熊本トヨタ自動車株式会社落札 訓練棟改築等工事安全祈願祭	9 安倍晋三首相退陣、後任に 菅義偉氏

年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
12	<p>議会選出監査委員に米本宗徳氏選任</p> <p>令和2年度寄贈救急自動車関連事業 納入検査</p> <p>高規格救急自動車贈呈式</p> <p>球磨川水系防災・減災ソフト対策等 補助金事業活用</p> <p>水難救助資機材購入事業入札会 株式会社田原商会落札</p>  	
R3	<p>1 監査委員に山崎信治氏（識見）就任</p> <p>2 組合長に吉瀬浩一郎氏（多良木町長） 再任</p> <p>3 水難救助資機材購入事業納入検査 （ボート、ウェットスーツ、PFD、ウェーダー等）</p> <p>上球磨消防組合訓練棟改築工事 竣工検査</p> <p>災害対応特殊水槽付消防ポンプ 自動車更新事業納入検査</p> <p>ポンプ2号車配備式</p> <p>上球磨消防組合訓練棟改築工事 監理業務納品検査</p>    <p>4 高機能消防指令システム及び消防救急デジタル無線システム保守業務入札会 三球電機株式会社福岡支店落札</p> <p>水難救助車購入事業入札会 株式会社田原商会落札</p> <p>消防庁舎総合落成式</p>  <p>5 組合長に中嶽弘継氏（水上村長） 就任</p> <p>6 令和3年統合型位置情報通知装置 更新事業入札会 三球電機株式会社福岡支店落札</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策費 物品調達感染防止衣入札会 株式会社ニッカス熊本落札</p> <p>幼児用ライフジャケット贈呈式（免田ライオンズクラブ寄贈）</p> <p>7 令和3年度統合型位置情報通知装置更新事業納入検査</p> <p>8 新型コロナウイルス感染症対策費 物品調達感染防止衣納入検査</p> <p>10 水難救助車購入事業納入検査</p> <p>11 水難救助車配備式</p> <p>議会議長に宇佐信行氏就任（第16代）</p> 	<p>1 米大統領にバイデン氏就任</p> <p>2 新型コロナウイルス長期化 進むワクチン接種</p> <p>2 ミャンマーで国軍クーデター</p> <p>4 ゴルフの祭典マスターズ 松山英樹メジャー大会制覇</p> <p>7 東京五輪・パラ、1年延期で開催 史上最多のメダル58個獲得</p> <p>7 静岡県熱海市で土石流 （死者26人 行方不明者1人）</p> <p>9 菅首相1年で退陣、 岸田文雄政権発足</p> <p>9 大谷翔平選手、投打「二刀流」 ア・リーグMVP獲得</p> <p>11 新型コロナウイルス、世界の 死者500万人超</p>

年 月	消防組合の沿革	社会の出来事
R4 4	職員3名採用 初任科3名入校（第67期） 職員数：65名 熊本県消防学校教官へ恒松昭次司令補を派遣 令和4年度高機能消防指令システム等保守業務委託入札会 三球電機株式会社福岡支店落札	2 ロシアがウクライナに軍事侵攻 4 北海道知床半島沖、観光船「KAZU I」沈没（死者20人 行方不明者6人）
5	水難救助資機材購入事業入札会 熊本いちほら工業株式会社落札	7 安倍元首相、銃撃され死亡
7	第50回九州地区消防救助技術指導会（諫早市） 陸上の部：湯山班（引揚救助）出場	9 エリザベス英女王死去
8	消防署所の再配置に係る 財政支援に関する要望（総務省） 公用車（トヨタ ノア）寄贈式 （岩下兄弟株式会社から寄贈） 水難救助資機材購入事業及び 無人航空機購入事業納入検査	10 韓国ソウルで雑踏事故発生 邦人2人含む158人死亡 11 北朝鮮、相次ぎミサイル発射 11月末までに80発以上
		
R5 4	職員3名採用 初任科3名入校（第68期） 職員数：66名 組合長に中嶽弘継氏（水上村長）再任 議会議長に米本宗徳氏就任（第17代） 令和5年度高機能消防指令システム等保守業務委託入札会 三球電気株式会社福岡支店落札	2 トルコ地震、M7.8（死者約57,000人） 4 岸田首相遊説中に爆発物投下
5	高規格救急自動車 高度救命処置用資機材整備事業入札会 熊本トヨタ自動車株式会社落札 議会選出監査委員に豊永好人氏選任	5 新型コロナウイルス「5類」移行 5 広島で先進7カ国首脳会議（G7サミット開催）
7	人吉球磨消防指令センター高機能消防指令システム整備実施設計業務 委託及び同整備工事施工管理業務委託契約締結	8 原発処理水放出に中国反発
9	上球磨消防署東分署非常用発電機設置工事入札会 株式会社尾前電機落札 ウォータージェット船外機付きウレタンボート整備事業入札会 熊本いちほら工業株式会社落札	10 性加害でジャニーズ事務所解体 10 イスラエル軍とイスラム組織 ハマス軍事衝突 10 将棋・藤井聡太、八冠制覇
10	高規格救急自動車 高度救命処置用 資機材整備事業納入検査	12 政治資金パーティー裏金疑惑 岸田政権を直撃
		
R6 2	ウォータージェット船外機付き ウレタンボート整備事業納入検査	1 石川県能登半島地震 震度6強 M7.6（死者260人 行方不明者3人）
4	職員2名採用 初任科2名入校 （第69期） 職員数：68名	1 羽田空港、航空機同士が衝突 海上保安庁5名死亡
5	資機材搬送車整備事業入札会 株式会社田原商会落札	7 株価初の4万円台 バブル期上回る
6	水難救助用ゴムボート及び 船外機等整備事業 株式会社田原商会落札	7 物価高騰が生活直撃
7	第80回熊本県救急教育セミナー （上球磨消防本部：オンライン開催） 第52回九州地区消防救助技術指導会 陸上の部：城本班（ロープブリッジ救出）出場	8 パリ五輪、日本勢最多の金20個 総数45個メダル獲得 8 岸田首相退陣 自民総裁選で石破氏選出
8	第52回全国消防救助大会（千葉市） 陸上の部：尾方班（ほふく救出）出場 水上の部：郷消防士長（複合検索）出場	9 ドジャース大谷翔平 メジャー初の「50-50」
10	水難救助用ゴムボート及び船外機等整備事業納入検査	11 米大統領選、トランプ氏返り咲き
12	人吉球磨消防指令センター 試験運用開始（12/17～）	
		

通信指令業務

通信指令業務は、119番通報の緊急通報受付業務をはじめ、一般加入電話、病院問い合わせなどに対応しています。また、119番通報や加入電話を通じて地域住民と最初に接する消防本部の窓口にもなります。

119番通報覚知の際には、内容を基に災害種別（火災、救急、救助）の判断、場所の特定、災害の状況、傷病者の状態などを聴取し、適切な車両（ポンプ車、救急車、救助工作車など）を選定し出動させます。

昭和49年10月の実働開始と同時に119番通報の受付業務を開始。当時は黒い個別の受信機を8機並べただけの簡単なもので、災害入電時は通報ベルが鳴動している受信機を探し出し素早く受話器を取り対応するものでした。実働開始から今日に至るまで通信指令業務の改善や通信指令設備の更新を行っています。現在では指令台地図検索装置をはじめ、車両運用端末装置（AVM）などの装置により通報から現場到着までのさらなる時間短縮が可能となりました。

現在、人吉下球磨消防組合と消防指令業務及び消防指令システム共同化の運用開始に向けて整備が始まっています。これは、災害情報を一元化することにより、広域災害発生時における両消防組合の連携及び対応力の強化、指令システム整備・保守費用の縮減、複雑多様化する災害に対応する専門職員の養成等、多岐にわたる効果が見込まれるためです。共同化事業、「人吉球磨消防指令センター」の運用開始に向けて整備を進めています。



現在の通信指令室 令和6年12月17日現在

通信業務の歴史（昭和～平成）



昭和49年～昭和55年
実働開始時の受信機は、当時の8カ町村分の黒電話機を並べただけのもので、受信すると電話機に取り付けられた赤いパトランプが点滅しながらベルが鳴るものでした。

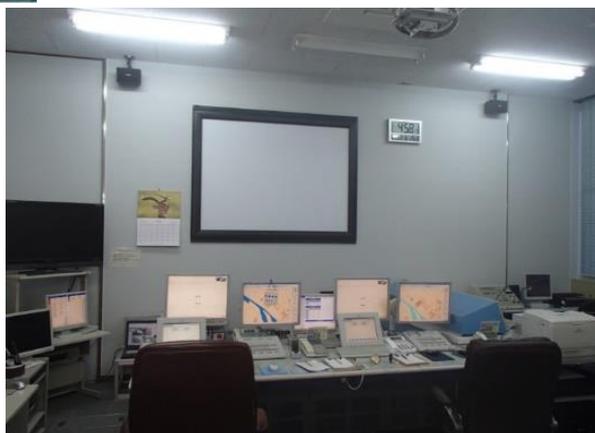
昭和55年～平成7年
119番受信装置の一元化及び順次指令装置を導入。併せて災害問い合わせに対するテレホンサービスの運用開始。



平成7年～平成21年
(沖電気社製)
災害現場の検索、地図表示、出動指令等が簡単にできる消防緊急通信指令装置の運用開始。



平成21年～令和元年
(NEC社製)
消防指令システムの運用開始。
平成27年に消防救急デジタル無線の運用開始。



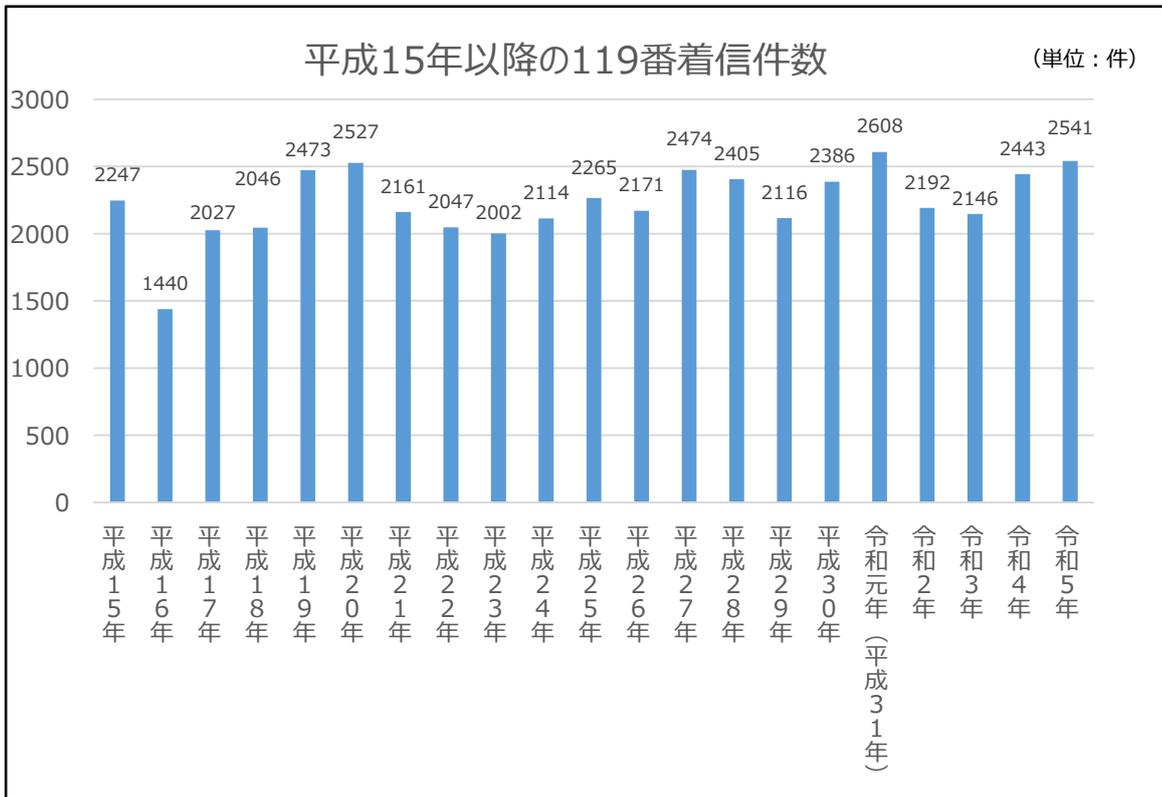
通信業務の歴史（令和～現在）



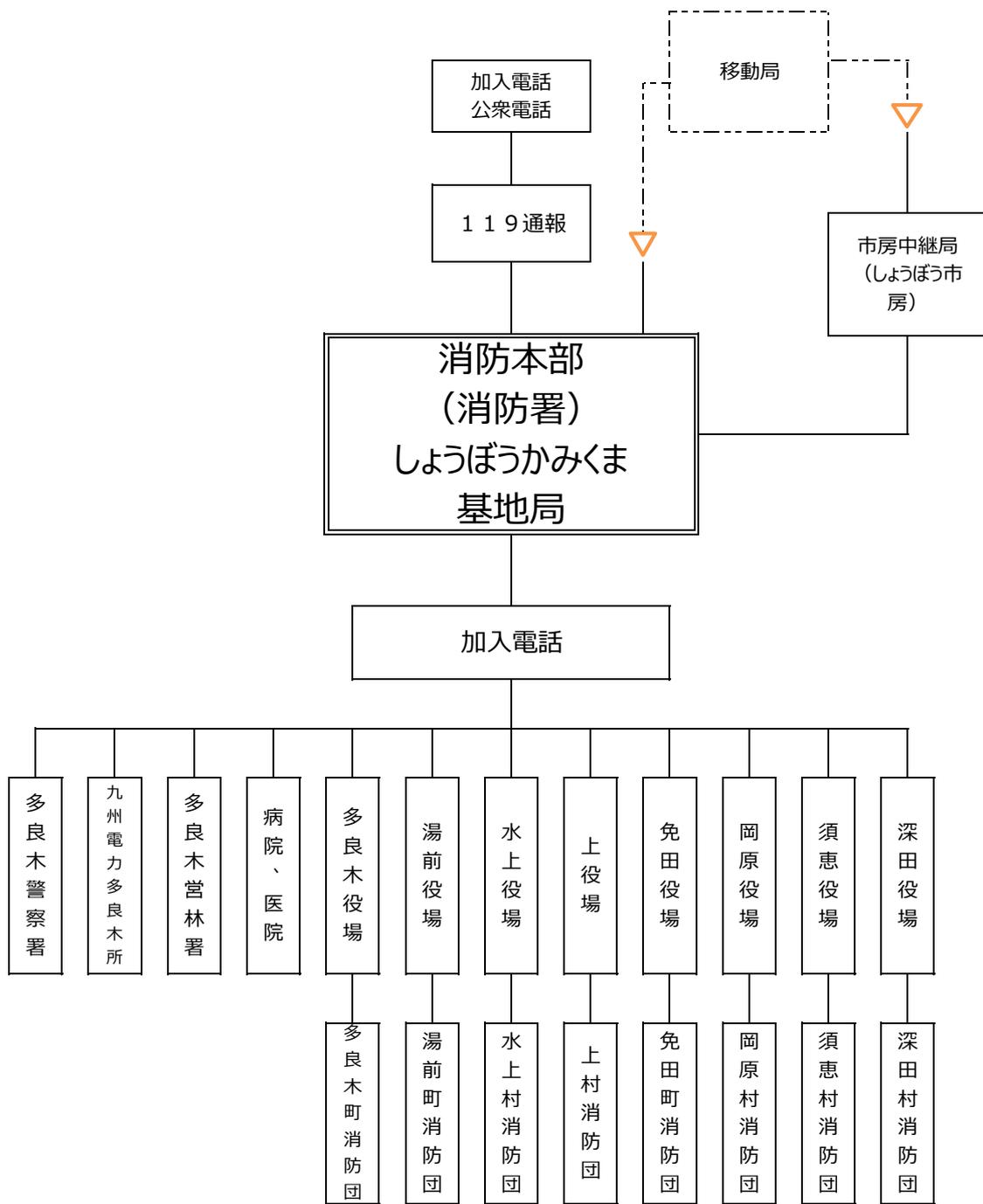
令和元年～現在（NEC社製）

令和元年10月から新庁舎建設に伴い、現在のNEC社製の消防指令システムの運用を開始。

指令台地図検索装置をはじめ、車両運用端末装置（AVM）などの装置により通報から現場到着までのさらなる時間短縮が可能となりました。

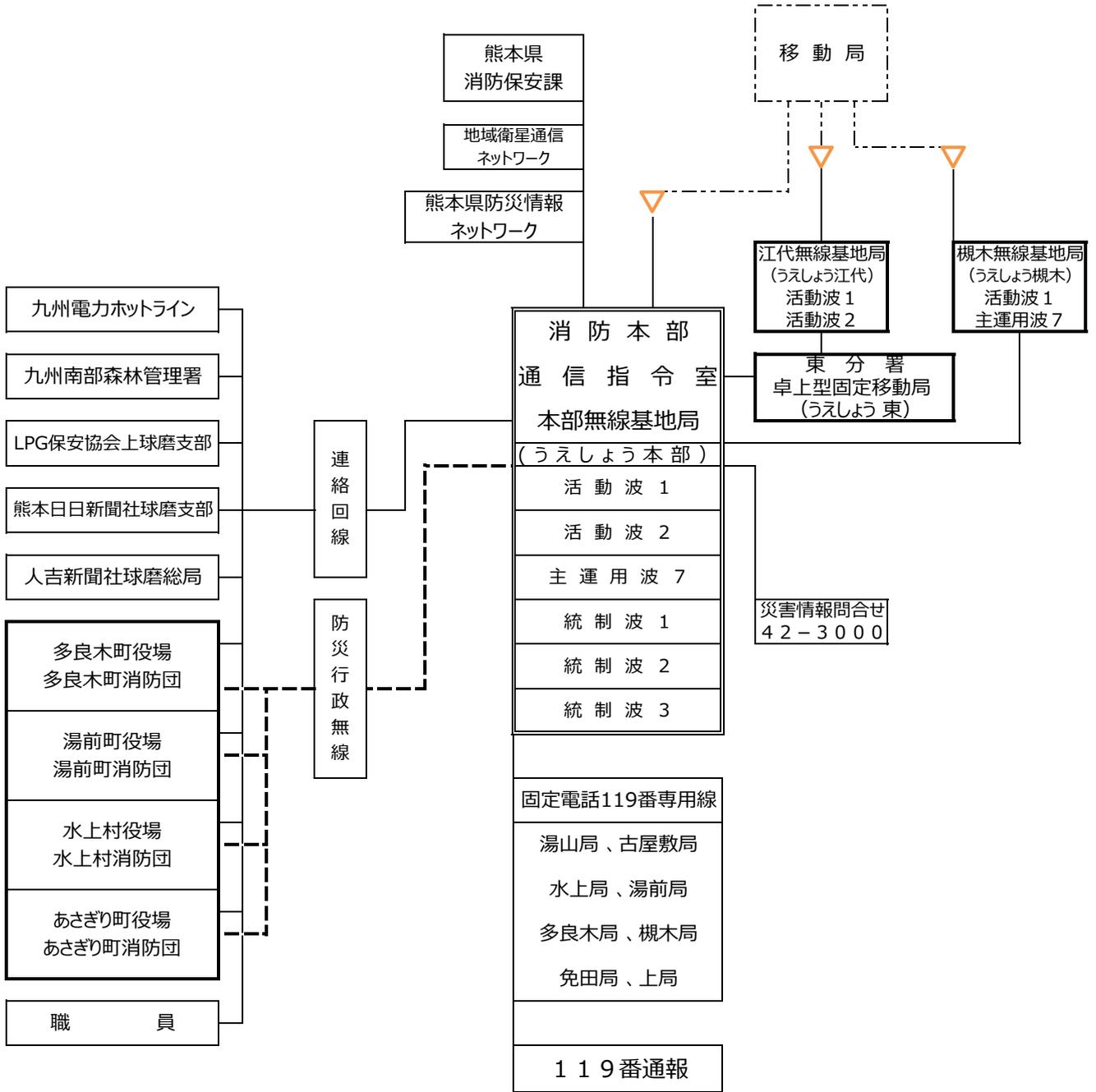


通信系統図（昭和50年）



移動局	
呼出名称	備考
しょうぼうかみくま 1	指令車
しょうぼうかみくま 2	ポンプ車 1号
しょうぼうかみくま 3	ポンプ車 2号
しょうぼうかみくま救急 1	救急車
しょうぼうかみくま 1 1	携帯無線
しょうぼうかみくま 1 2	携帯無線

通信系統図（令和5年）



移動局		
呼出名称	出力W	備考
うえしよ指揮	5	水難救助車
うえしよポンプ1	5	ポンプ1号車
うえしよポンプ2	5	ポンプ2号車
うえしよ救助	5	救助工作車
うえしよポンプ3	5	ポンプ3号車
うえしよ資搬車	5	資機材搬送車
うえしよ救急1	5	救急1号車
うえしよ救急2	5	救急2号車

移動局		
呼出名称	出力W	備考
うえしよ救急3	5	救急3号車
うえしよ東救急	5	東救急車
うえしよ東ポンプ	5	東ポンプ車
うえしよ広報1	5	広報1
うえしよ広報2	5	広報2
うえしよ17	5	可搬型
うえしよ10～16	1	携帯無線(本署)
うえしよ21・22	1	携帯無線(東分署)
うえしよ20	1	携帯無線(通信指令室)

警 防 業 務

(火災・救助・大規模災害・救急)

昭和 49 年 10 月、職員 35 名、消防車両 4 台で実働を開始し、年間の出動件数は、火災は 4 件（昭和 49 年）、救助は 2 件（統計開始の平成元年）、救急は 475 件（昭和 50 年）という状況でしたが、その後の社会環境の変化や地方への開発が進むにつれ災害も増大し、災害内容も複雑化及び多様化してきました。そのような中で、各種災害に対応できるよう人員の増強並びに車両及び資機材の整備が図られ、令和 6 年 4 月現在、職員 68 名、消防車両 14 台となり、今日まで上球磨地域の防災を担ってきました。

また、近年毎年のように地震、豪雨、洪水等による自然災害が発生し、多くの方が犠牲に遭われ、多くの生命財産が失われています。平成 7 年に発生した阪神・淡路大震災を契機に単独消防本部では対応しきれない災害に対し、県又は全国単位で応援できるよう都道府県消防相互応援協定及び緊急消防援助隊という体制が構築されました。当組合も緊急消防援助隊に令和 6 年 4 月現在、消火小隊 1 隊、救急小隊 1 隊の計 2 隊を登録し、これまで平成 23 年に発生した東日本大震災、平成 28 年に発生した熊本地震等の災害に派遣してきました。

救急業務にあっては、発足当初から右肩上がりに増加し、令和 4 年に 1,814 件と過去最高件数を記録するなど、救急需要はますます高まっています。また、そのような中で発生した新型コロナウイルス感染症への対応には大変苦慮しました。

今後も南海トラフ地震、首都直下地震などの大規模災害の発生が予想され、また未知なる感染症など、あらゆる災害に対応できるよう車両及び資機材の整備を行うとともに、職員の知識及び技術の向上を図り、また構成町村等の関係機関と協力・連絡体制をより一層構築し、十分な消防活動ができる体制を確立することが急務であると考えます。また、更に進む高齢化社会に伴う災害弱者をあらゆる災害からどのようにして守るかを今後の課題とし、今後も上球磨地域の防災の要として、地域住民の信託に応えるため邁進していきます。



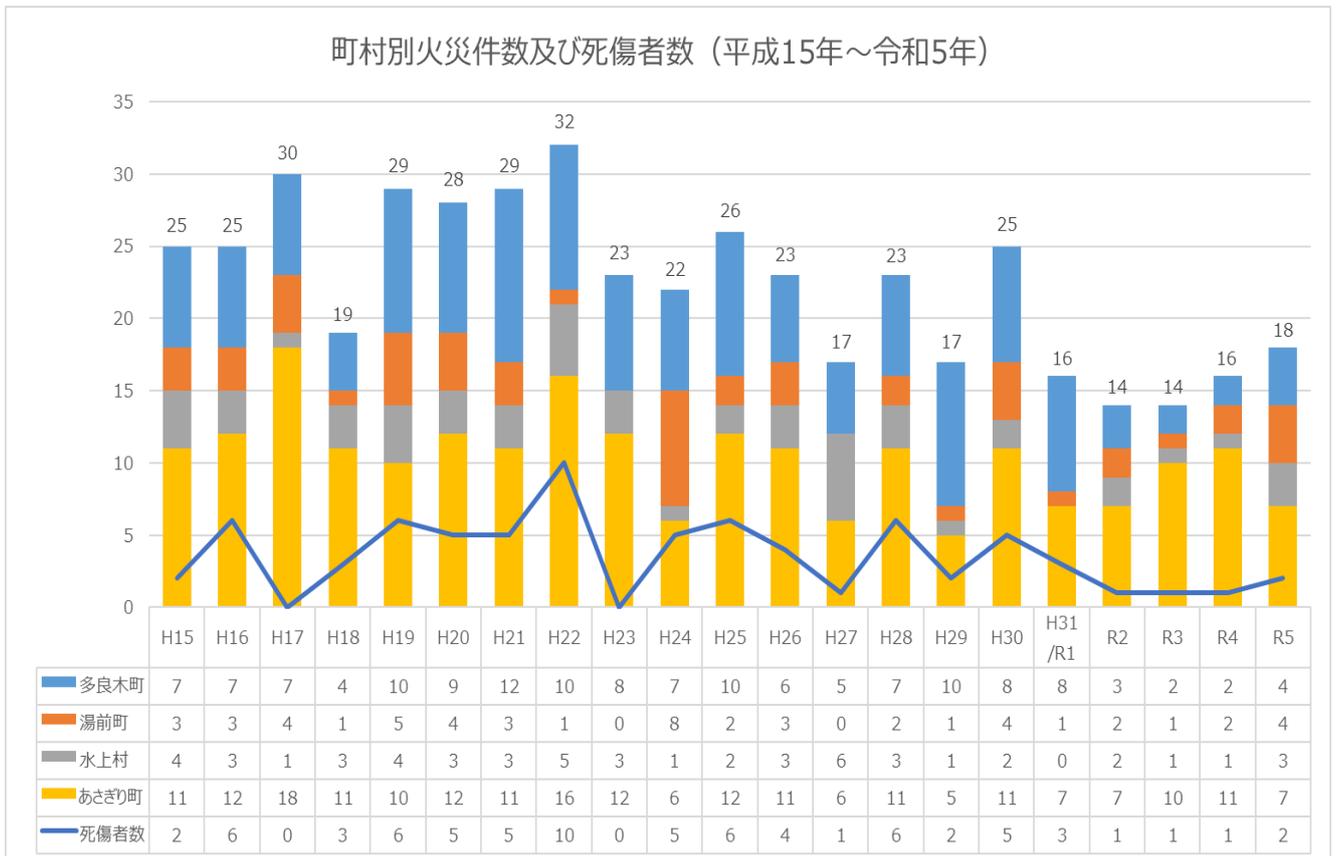
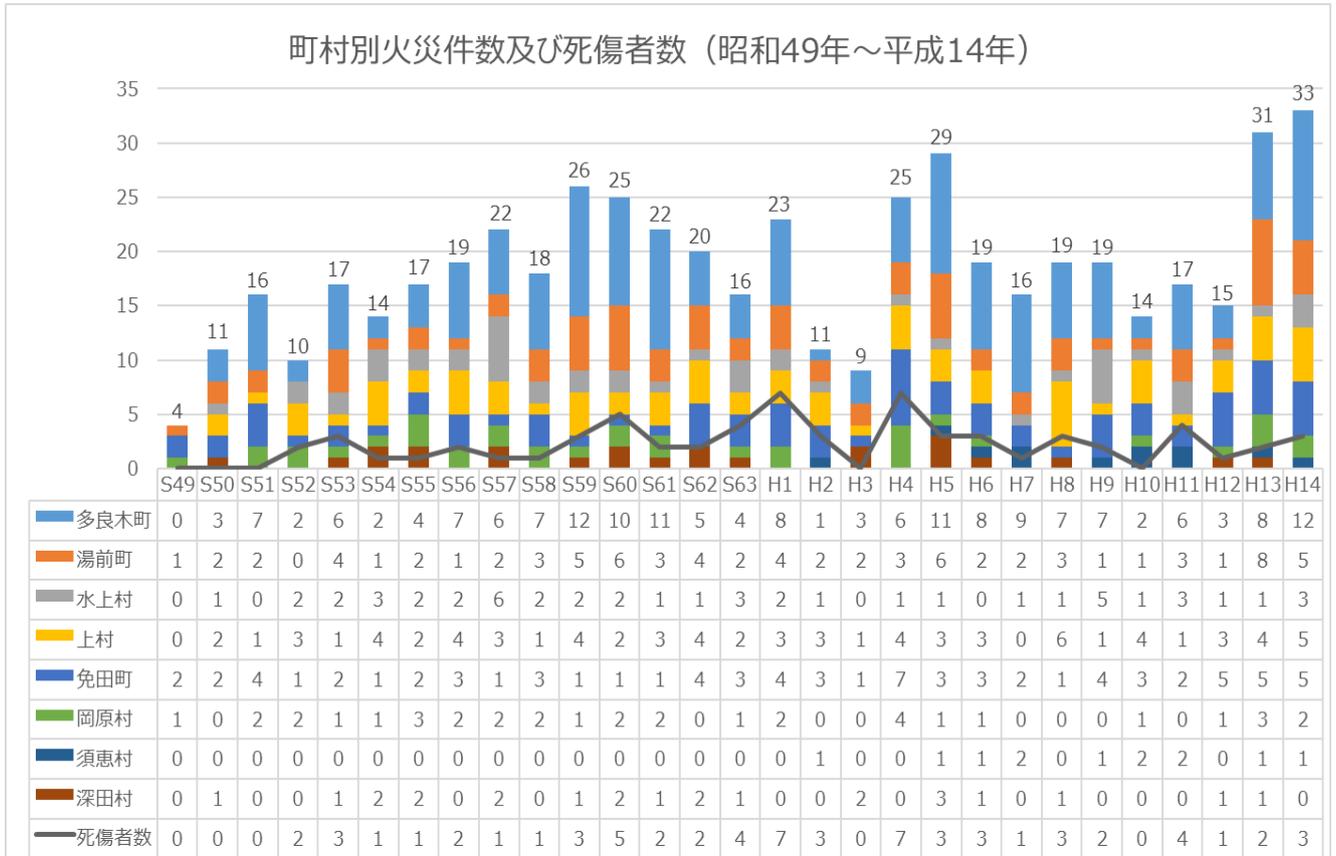
(建物火災時の消火活動の様子)



(豪雨災害時の救助活動の様子)

火災

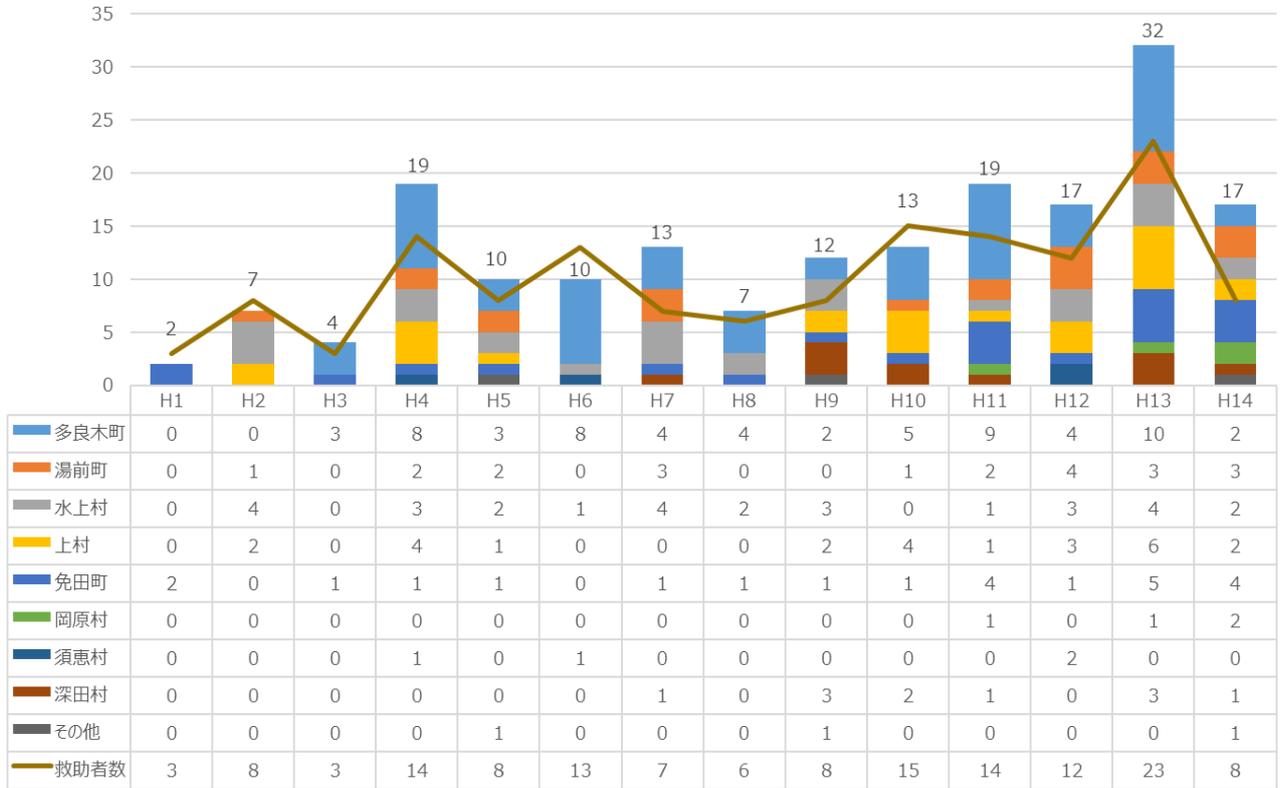
○統計（グラフ中の数値にあっては各年の火災総件数）



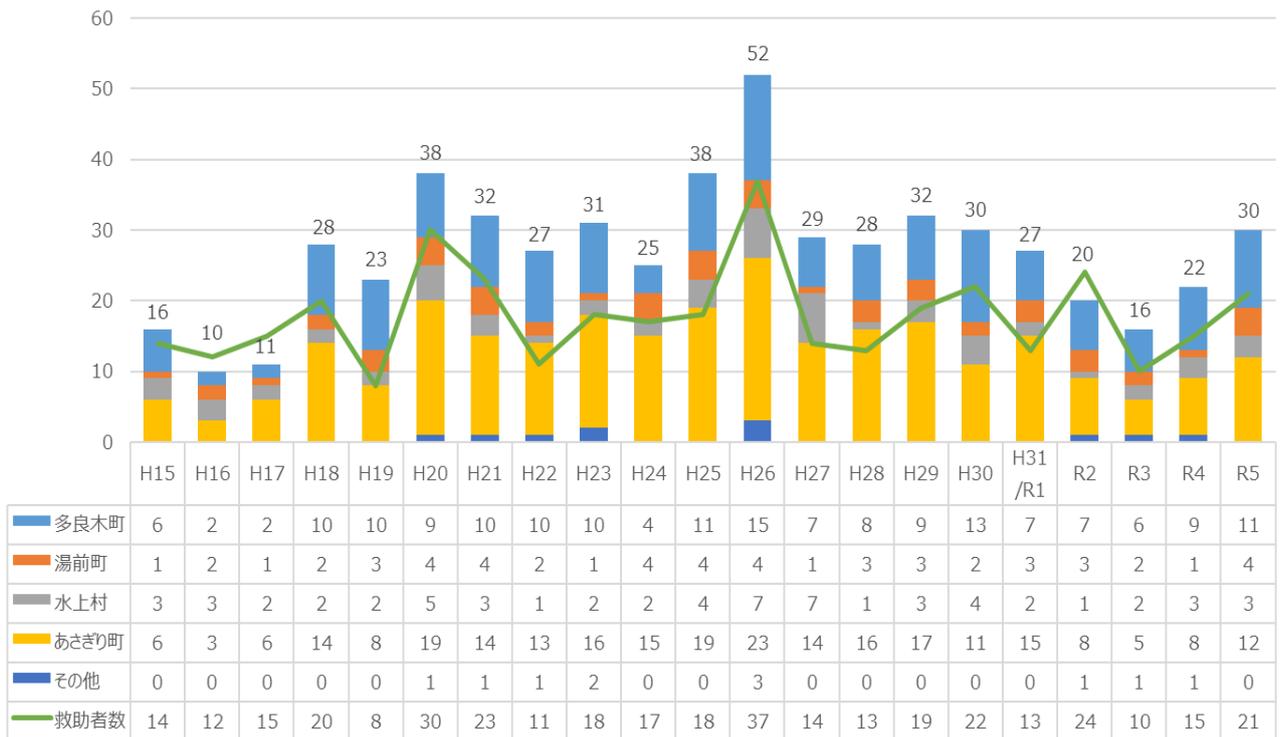
救 助

○統計（グラフ中の数値にあつては各年の救助出動総数）

町村別救助出動件数及び救助者数（平成元年～平成14年）



町村別救助出動件数及び救助者数（平成15年～令和5年）



大規模災害

○派遣状況（緊急消防援助隊・熊本県消防相互応援協定）

災害名	災害概要・派遣状況	現場状況
<p>熊本県南集中豪雨水俣土砂災害 （平成 15 年 7 月発災）</p>	<p>梅雨前線の影響により 1 時間雨量 70mm を超える大雨により土砂災害が発生。熊本県消防相互応援協定に基づき、当組合から水俣芦北広域行政事務組合消防本部に派遣。</p>	 <p>←水俣市の東部に位置する宝川内集地区において発生した土砂崩れの状況</p>
<p>東日本大震災 （平成 23 年 3 月発災）</p>	<p>東北太平洋沖を震源とする M9.0 最大震度 7 を記録し、大津波も発生し、人的被害は災害関連死を含め、2 万人を超えた。緊急消防援助隊として、延べ 7 日、延べ 13 名が当組合から宮城県に派遣。</p>	 <p>←緊急隊集結 捜索活動→ ←消火活動 食事風景→</p>
<p>平成 24 年九州北部豪雨 （平成 24 年 7 月発災）</p>	<p>熊本・福岡・大分を中心に梅雨前線による集中豪雨が発生。熊本県内においては阿蘇地方が最多雨量を観測し、土砂崩れ等による人的及び家屋に被害をもたらした。熊本県消防相互応援協定に基づき、延べ 2 日、延べ 7 名が当組合から阿蘇広域行政事務組合消防本部に派遣。</p>	 <p>←土砂崩れに伴う家屋倒壊箇所を重機及び人海戦術による捜索活動 ↓</p>
<p>熊本地震 （平成 28 年 4 月発災）</p>	<p>前震と本震で最大震度 7 を 2 度、震度 6 強・弱を計 5 回観測。揺れの大きさは東北地方太平洋沖地震を上回り、家屋及び道路に多くの被害をもたらした。熊本県消防相互応援協定に基づき、延べ 7 日、延べ 24 名が当組合から熊本市消防局益城西原消防署に派遣。</p>	 <p>←緊急消防援助隊集結状況（熊本県消防学校グラウンド） 家屋の被害状況確認→</p>

<p>平成 29 年 7 月九州北部豪雨 (平成 29 年 7 月発災)</p>	<p>梅雨前線の影響により線状降水帯が発生し、福岡県及び大分県を中心に集中豪雨が発生。1 時間に 100mm を超える降水量を観測。家屋の浸水等もあったが、人的被害の方が大きかった。緊急消防援助隊として、延べ 21 日、延べ 36 名が当組合から福岡県朝倉市及び大分県日田市に派遣。</p>	 <p>←土砂崩れ・河川氾濫状</p>  <p>土砂崩れにより倒壊した家屋での捜索活動→</p>
<p>佐賀豪雨 (令和元年 8 月発災)</p>	<p>秋雨前線の影響により線状降水帯が発生し、佐賀県を中心に九州北部で集中豪雨による災害が発生。緊急消防援助隊として、延べ 4 日、延べ 6 名を当組合から佐賀県武雄市に派遣。</p>	 <p>←安否確認活動</p>  <p>河川等に流れた油等の処理・回収活動→</p>
<p>令和 2 年 7 月豪雨 (令和 2 年 7 月発災)</p>	<p>梅雨前線が長期にわたり停滞し、熊本県を中心に九州に線状降水帯が多発し、人吉球磨地方も大雨を観測し、球磨川が氾濫。当組合に隣接する人吉下球磨消防組合本部は庁舎が浸水し、消防車両の多くが水没するなどの被害を被った。これに伴い緊急消防援助隊及び熊本県消防相互応援協定に基づき多くの消防車両及び隊員が人吉下球磨消防組合本部に派遣された。当組合も熊本県消防相互応援協定に基づき、延べ 13 日、延べ 23 名を人吉下球磨消防組合消防本部に派遣。</p>	 <p>←人吉市の被害状況</p>  <p>人吉市内の被害状況・捜索活動→</p>  <p>←当組合庁舎の横を流れる柳橋川の状況</p>

救急業務の歩み

【昭和 49 年～昭和 63 年】

昭和 49 年 10 月、職員 35 名、救急車 1 台で救急業務がスタート。救急業務開始翌年の救急出動件数は 475 件でした。組合発足当初の救急業務は、傷病者を医療機関まで搬送することが主な業務であり、胸骨圧迫心臓マッサージ等の心肺蘇生や出血に対する止血等の応急処置のみが実施可能でした。そうした背景もあり当時の救急車は、傷病者を現場から医療機関まで搬送する「搬送手段」という側面が大きく、救急車内の資機材も極めて少数でした。



発足当初の交通事故想定訓練



消防署内で開催された防災訓練時の救急講習
(昭和 55 年)



横谷トンネルでの防災訓練 (昭和 61 年)



当時の救急車内の様子

【平成元年～平成 15 年】

平成 3 年の救急救命士制度の開始に伴い、当組合では平成 6 年に救急救命士第 1 号が誕生しました。

これにより救急救命士の資格を持つ救急隊員が救急現場・搬送中の車内で「救急救命処置（※1）」ができるようになりました。それまでの「搬送手段としての救急車」とは異なり、「命を救うための処置ができる救急車＝高規格救急車（※2）」が配備されるようになり、平成 7 年から現在に至るまで当組合に配備された救急車は全て「高規格救急車」となりました。

なお、管内の高齢化に伴い救急出動件数も増加しており、平成 11 年には救急出動件数が 1,000 件を突破しました。

※1：救急救命処置とは、それまでに救急隊員が可能であった処置に加えて、医師の具体的な指示により実施可能な「AED による電気ショック」「点滴」「高度な気道確保(食道閉鎖式エアウェイ・ラリングアルマスク)」等の処置のこと。

※2：高規格救急車とは、救急救命士が行う救急救命処置に必要な資器材を搭載し、その処置を実施するスペースが十分に確保された高機能・高性能な救急車のこと。



救急の日キャンペーン（平成 4 年）



旧西村繊維跡での救急シミュレーション訓練
（平成 13 年）



高規格救急車の車内の様子



救急服ワッペン

【平成 16 年～平成 30 年】

救急救命士が実施可能な救急救命処置も徐々に拡大が進み、救急救命士制度発足から可能であった処置に加えて、平成 15 年に包括的指示下（※3）での除細動、平成 16 年に気管内チューブによる気道確保（気管挿管）、平成 18 年にアドレナリン投与、平成 21 年に自己注射が可能なアドレナリン製剤（エピペン）の投与、そして平成 26 年に心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液（ショック輸液）・血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液投与が新たに追加されました。

さらに、平成 24 年には熊本県ドクターヘリ事業の開始に伴い、ドクターヘリと熊本県防災消防ヘリ「ひばり」が役割分担と相互補完をする「熊本型ヘリ救急搬送体制」がスタート。これにより重症傷病者への「ドクターデリバリーシステム」が確立しました。

平成 26 年には指導的立場の救急救命士（指導救命士）制度が開始。これにより誕生した指導救命士が救急隊員の教育・育成、救急事案の事後検証、救急活動プロトコルの策定等を担っており、当組合の救急業務全般の質の向上に尽力しています。

この頃には管内の救急需要が益々高まり、平成 24 年には救急出動件数は 1,500 件を超えました。

※3：包括的指示とは、医師の具体的な指示を必要せず、あらかじめ決められた手順（プロトコル）に沿って処置を実施すること。



アドレナリン投与の救急処置訓練
(平成 18 年)



ドクターヘリ運用開始当初の連携活動
(平成 24 年)



指導救命士による城南ブロック消防本部への教育
(平成 29 年)



指導救命士ワッペン

【令和元年～現在】

令和2年からの新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行(パンデミック)により、当組合の救急活動にも大きな変化をもたらしました。出動準備から搬送後の手順までを示した「救急活動マニュアルの策定」、洗浄して繰り返し使用可能な「リユースタイプの感染防止衣」や救急車内の除菌を目的とした「オゾンガス発生器」の導入等、平常時よりも感染防止対策を徹底しながらの救急活動となりました。

令和5年5月に感染症法上の位置付けが「2類相当」から「5類」に移行となるまでに、当組合では115名の新型コロナウイルス感染症患者を搬送しました。

全国的に救急出動件数は年々増加しており、それに伴う救急車現場到着時間(通報から救急車到着までの時間)の延伸が大きな社会問題となっています。当組合管内も例外ではなく、令和4年の救急出動件数は1,814件と過去最高を記録しました。

そのような状況の中、現在(令和6年11月)、当組合では救急車3台、指導救命士7名、救急救命士21名の体制で日々救急業務を行っています。



城南ブロック消防本部救急総合
シミュレーション演習 (令和2年)



新型コロナウイルス流行期の救急活動



【通常時】

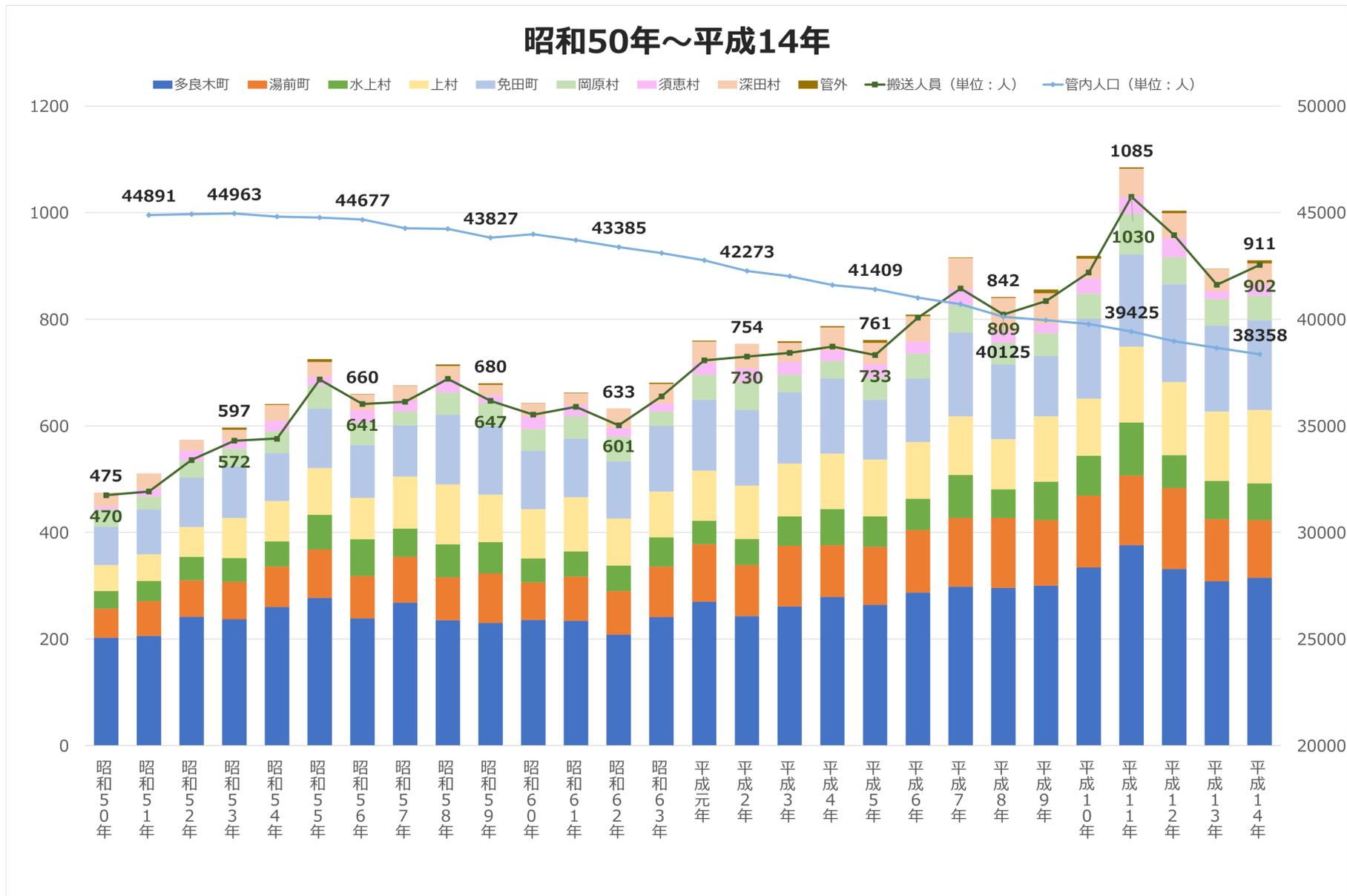


【夜間：反射材による視認性向上】

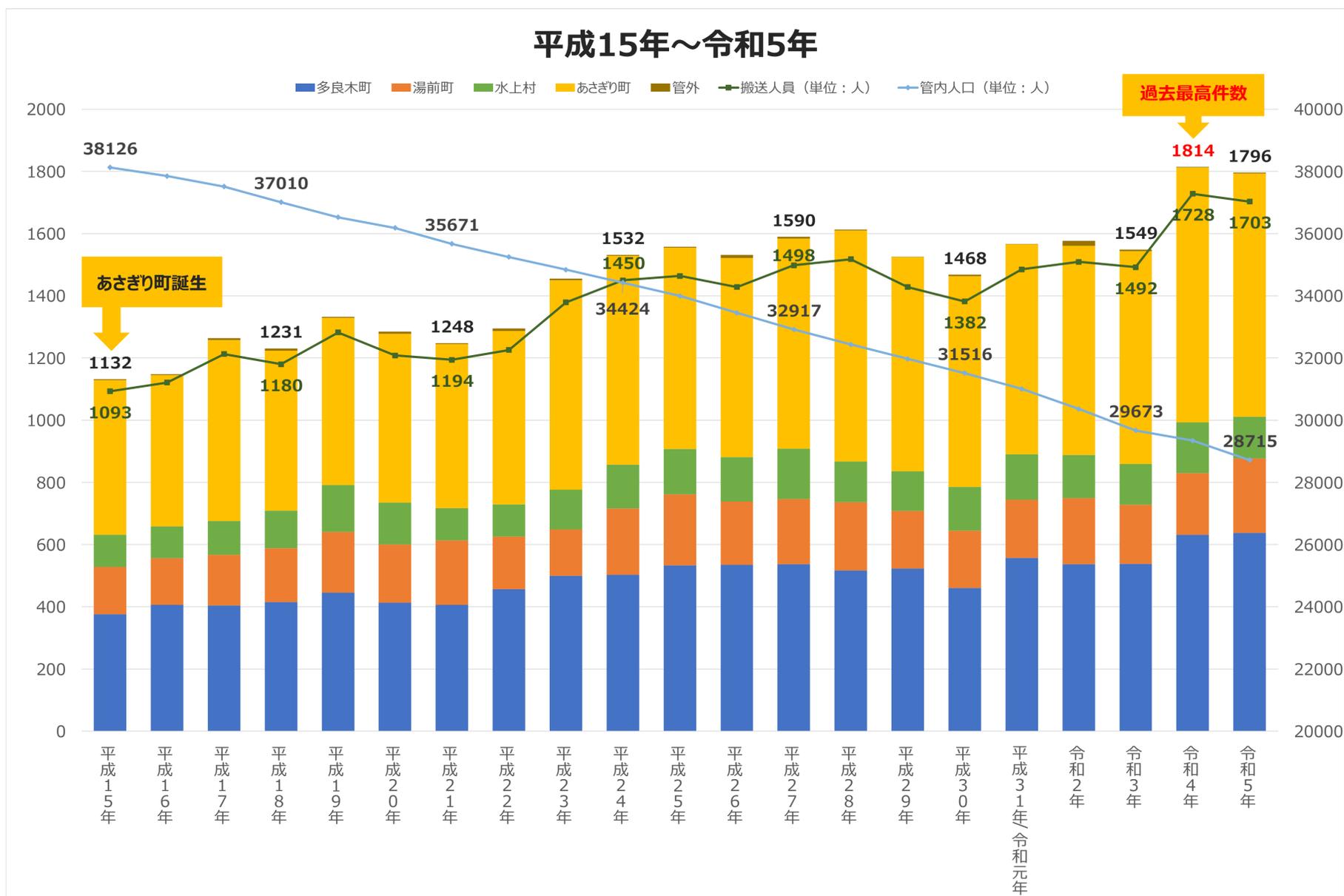
新救急車の反射材：バツェンバーグ・マーキング
(令和5年)

救急出動件数・救急搬送人員の推移

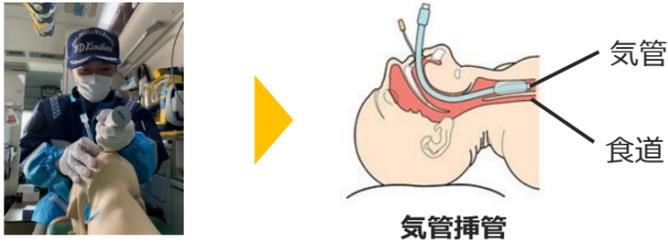
昭和50年～平成14年



平成15年～令和5年



救急救命処置の沿革

年月	沿革	上球磨消防組合
平成3年 4月	<p>救急救命士法制定（国家資格） 医師の具体的指示の下 ・半自動式除細動器による除細動（AEDによる電気ショック） ・乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保のための輸液（点滴） ・食道閉鎖式エアウェイ及びラリングアルマスクを用いた気道確保 上記3項目が特定行為として実施可能となる ※具体的指示：医師に直接通信（携帯電話等）を繋いで、救命処置の指示、指導・助言を口頭で得ること</p>  <p>食道閉鎖式エアウェイ（ラリングアルチューブ） ラリングアルマスク</p>	平成6年11月 救急救命士第1号誕生、運用開始 ※現在、救急救命士資格取得者21名
平成14年 7月	<p>メディカルコントロール（MC）協議会体制の充実強化 ※メディカルコントロール：病院前医療（救急隊）の質を保證するとともに傷病者の安全性を確保する仕組み</p>	平成14年9月 上球磨MC協議会発足
平成15年 4月	<p>包括的指示の下で除細動（AEDによる電気ショック） 地域MC協議会の事後検証体制の整備が条件 AED普及と心肺蘇生法講習の増加 ※包括的指示：あらかじめ定められた手順書・プロトコルに従って救命処置を実施すること</p>	平成15年4月 包括的除細動プロトコル作成 追加講習、想定シミュレーション実習にて認定
平成16年 7月	<p>気管内チューブによる気道確保（気管挿管） 追加講習（62時間）を受講、病院実習修了（実技30症例以上）にて認定 ※平成16年以降の救命士新規養成時のカリキュラムには、追加講習の内容が含まれている</p>  <p>気管挿管</p>	平成16年10月 気管挿管認定救命士第1号誕生、運用開始 ※現在、気管挿管認定救命士21名
平成18年 4月	<p>アドレナリン投与 追加講習（170時間）を受講、病院実習修了（実技1症例以上）にて認定 ※平成18年以降の救命士新規養成時のカリキュラムには、追加講習の内容が含まれている</p> <p>※アドレナリン：心拍数と心収縮力を増加、末梢血管を収縮させる作用で血圧を上昇させる薬剤（気管支拡張作用もある）</p> 	平成18年4月 薬剤投与認定救命士第1号誕生、運用開始 ※現在、薬剤投与認定救命士21名
平成21年 3月	<p>自己注射が可能なアドレナリン製剤（エピペン）の投与 アナフィラキシーにて本人による自己注射が困難な場合に、救急救命士が実施可能</p> <p>※アナフィラキシー：アレルギーなどに対して生じる全身性のアレルギー反応（蕁麻疹・喘鳴・喉頭浮腫・血圧低下等）</p> 	 <p>エピペン</p>
平成23年 8月	<p>ビデオ硬性挿管用喉頭鏡が使用可能 追加講習（7時間）を受講、病院実習修了（実技5症例以上）にて認定 ※熊本県MC協議会では使用が認められていない</p>	当組合の救急現場では使用不可
平成26年 4月	<p>心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液投与（略して処置拡大2項目） 追加講習（24時間）を受講、病院実習修了にて認定 ※平成28年以降の救命士資格取得者は、就業前病院実習時の薬剤投与認定と同時認定可能となる</p>  <p>血糖測定 ブドウ糖溶液投与</p>	平成26年10月 処置拡大2項目認定救命士第1号誕生、平成27年1月運用開始 ※現在、処置拡大2項目認定救命士20名

予 防 業 務

一般住宅や事業所等の火災予防を目的に、防火対象物に対して立入検査、違反の指導や助言、消防用設備等の設置や維持管理の指導、甲種防火管理者講習の実施。

危険物施設に対して危険物取扱者講習や再講習、危険物施設等の許認可や各種検査、違反処理などを行っています。

さらに、地域の自主防火組織として、少年消防クラブ1団体、幼年消防クラブ19団体について、積極的な指導を行い、特に幼年消防大会は、今年で24回目を迎えます。今後さらにクラブの育成指導が管内災害の未然防止につながるものと思います。

春・秋の火災予防運動をはじめ、文化財防火デー、危険物安全週間の広報等を実施、地域住民の方に防火意識の高揚、防火思想の普及啓発及び住宅用火災警報器の設置に向けた普及活動も行っています。



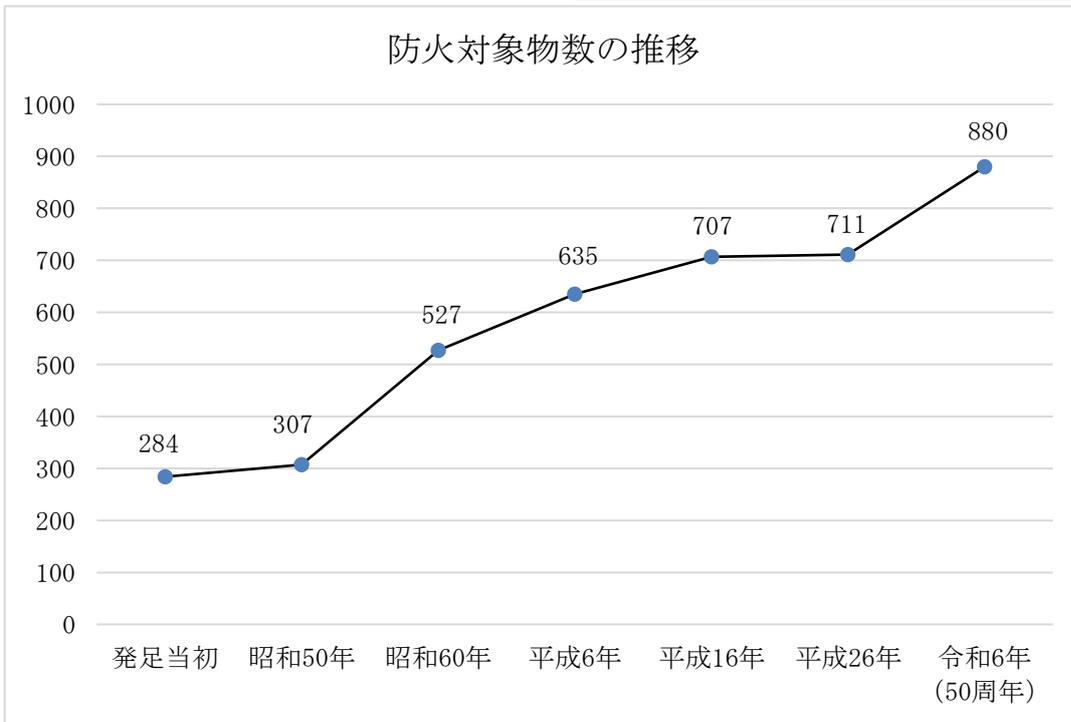
まこと保育園幼年消防クラブの園児が太鼓の演奏を披露する

防火対象物の現況

令和6年（各町村別）

区分		延べ面積150㎡以上（17項除く）の防火対象物				
		多良木町	湯前町	水上村	あさぎり町	計
1	イ	劇場・映画館				0
	ロ	公会堂・集会場	4	2	2	7
2	イ	キャバレー・カフェ				0
	ロ	遊技場	1		1	2
	ハ	風俗営業店等				0
	ニ	カラオケボックス等			1	1
3	イ	待合・料理店				0
	ロ	飲食店	9	5	2	21
4		マーケット・店舗	20	5		25
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所	3	1	12	6
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	15	1		31
6	イ	病院・診療所・助産所	8	2	2	9
	ロ	老人福祉施設等	9	2	4	15
	ハ	ロ以外の福祉施設・保育所等	10	5	4	28
	ニ	幼稚園・特別支援学校	4			1
7		学校	9	5	4	40
8		図書館・博物館	1			1

区分		延べ面積150㎡以上（17項除く）の防火対象物				
		多良木町	湯前町	水上村	あさぎり町	計
9	イ	蒸気浴場・熱気浴場等				0
	ロ	イ以外の公衆浴場			1	1
10		車両の停車場				0
11		神社・寺院・教会	4	2		3
12	イ	工場・作業場	73	25	13	97
	ロ	テレビスタジオ等				0
13	イ	自動車車庫・駐車場	12			12
	ロ	飛行機等の格納庫				0
14		倉庫	31	12	6	48
15		前各項以外の事業所	47	16	13	56
16	イ	複合用途（特定）	30	7	7	35
(16の2)	項	地下街				0
(16の3)	項	準地下街				0
17		重要文化財等	2	2	1	1
18		延長50m以上のアーケード				0
19		市町村長の指定する山林				0
20		総務省令で定める舟車				0
計			292	92	71	425



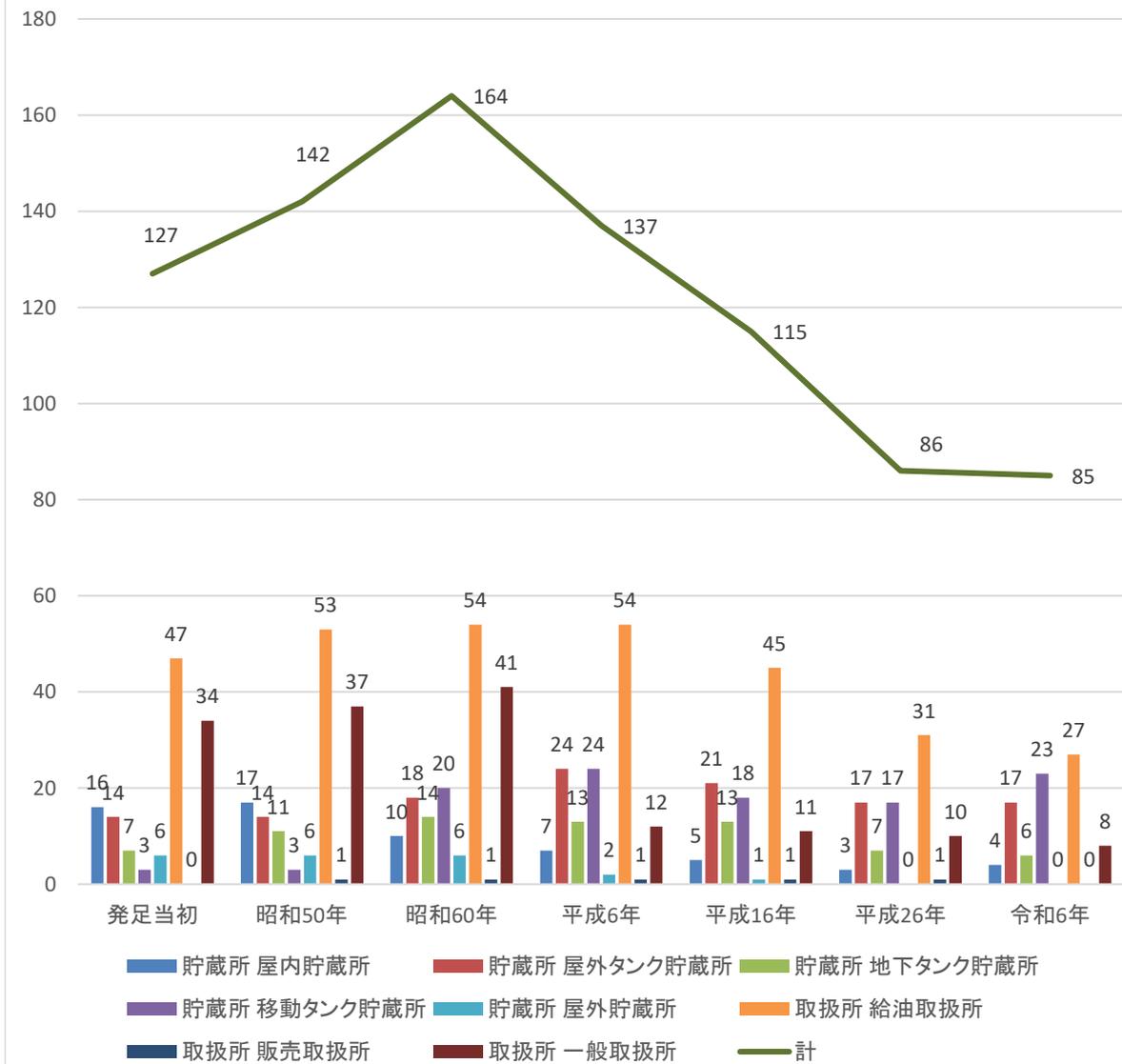
	発足当初	昭和50年	昭和60年	平成6年	平成16年	平成26年	令和6年（50周年）
防火対象物総数	284	307	527	635	707	711	880

危険物施設の推移

令和6年（各町村別）

施設区分 町村・区分	貯蔵所					取扱所			計
	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所	
多良木町		7	3	5		9		4	28
湯前町			1			3		1	5
水上村		1	1			1			3
あさぎり町	4	9	1	18		14		3	49
計	4	17	6	23	0	27	0	8	85

危険物施設数の推移

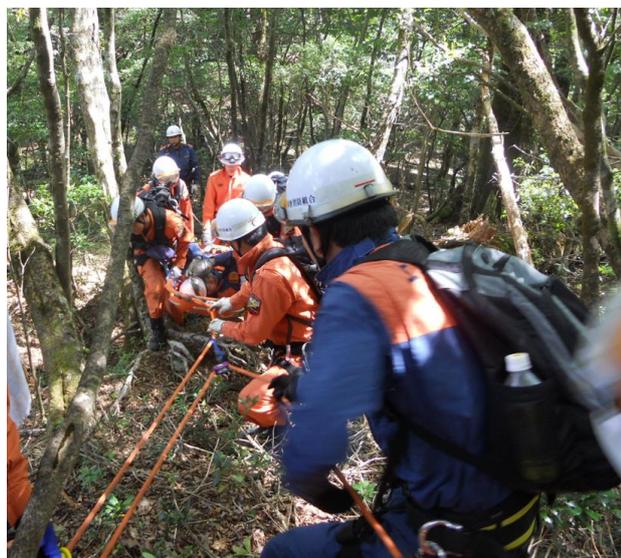


	発足当初	昭和50年	昭和60年	平成6年	平成16年	平成26年	令和6年 (50周年)
危険物施設総数	127	142	164	137	115	86	85

●火災防ぎょ訓練



●救助訓練



●潜水訓練



●急流救助訓練



●防災ヘリ合同訓練



●各種訓練



● 救助技術訓練



編集後記

発足 50 周年の節目の年を迎え、このたび上球磨消防組合 50 周年記念誌を発刊できることを心から感謝いたします。

今回の記念誌編さんにあたり、数少ない写真や資料集をもとに、先人から引き継いだ想いをつなげられるように編集を行いました。

時間的な制約があり、すべての思いを掲載することができませんが、先人たちが努力し、発展してきた上球磨消防組合の歴史・歩みを見ることができるのではないかと考えています。

本誌発刊に対し、ご協力いただきました多くの関係者の皆様に心から御礼申し上げますとともに、今後におきましてもご支援、ご指導をお願い致しまして、記念誌編さんの後書きとさせていただきます。

令和 6 年 12 月吉日

50 周年記念誌発刊プロジェクトチーム一同

